法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

# 和仏法律学校講義録

掛下，重次郎 / 島田，鐵吉 / 遠藤，忠次

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
1
(号 / Number)
号外の9
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
53
(発行年 / Year)
1901-06-05

# 和佛法律學校講義錄

第壹部

號外之九

民法 親族（完）（自三八五至四三五）法律學士 掛下重次郎

表紙及ヒ目次 六頁

民事訴訟法第二編（自二五九至二七六）法學士 遠藤忠次

戸籍法（自一六九至一九二）法學士 島田鐵吉

090
1900
1-2-9

ニ後見ノ計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルノ必要ナキモノトス之ニ反シテ後見人ノ更迭アリタル場合即チ被後見人ノ爲メ後見未タ終了セス後任後見人カ前任後見人ニ交替シタル場合ニ於テ前任後見人カ爲ス計算ハ被後見人自身又ハ其相續人ニ對シテ爲スモノニ非スシテ後見事務引續ノ爲メ後任後見人ニ對シテ爲スモノナルカ故ニ此場合ニ於テハ前後ノ後見人共謀スルトキハ私曲ヲ爲スコトヲ得可キ虞アルヲ以テ計算ノ審査ハ後任後見人ノミニ委セスシテ親族會ノ認可ヲ得ルコトヲ要スルモノトシテ被後見人ノ利益ヲ保護セリ

○計算終了前ニ成年ニ達シタル者カ後見人ニ對シテ爲シタル契約及ヒ單獨行爲ノ效力——第九百三十九條　未成年者カ成年ニ達シタル後後見ノ計算ノ終了前ニ其者ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ爲シタル契約ハ其者ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲亦同シ（第十九條及ヒ第百二十一條乃至第百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス（人事編第二〇八條）

未成年者カ僅ニ成年ニ達シタル際ニ在リテハ其智能未タ完カラス而シテ久シ

ク後見人ノ羈絆ノ下ニ在リテ未成年者ハ之ヲ脱シタル後ニ在リテモ其威嚴ニ制セラルルハ人情ノ免レサル所又久シク後見ニ付セラレ自ラ其財産ヲ自由ニスルコト能ハサリシ者カ成年ニ達シテ遽ニ其財産ヲ利用シ又ハ浪費セント欲スル者多キハ是レ亦人情ノ免レサル所ナリ故ニ未成年者カ成年ニ達シタル際ニ在リテハ金錢其他ノ財産ノ引渡ヲ受ケント欲スル念切ナルヨリ後見人ニ對シテ自己ニ如何ナル不利益ナル契約ヲ爲スヤモ圖リ知ル可カラサルナリ例ヘハ未成年者タリシ者ノ不動産ヲ廉價ニテ後見人ニ讓渡シ又ハ後見人ヨリ些少ノ金額ヲ受取リテ其計算其他一切ノ責任ヲ免除スル契約ヲ爲ス如キ是ナリ而シテ此危險ハ後見任務ノ繼續中ニ於ケルト毫モ異ナルコト非サルナリ故ニ未成年者カ成年ニ達シ能力ヲ取得シタル後ト雖モ後見ノ計算ニシテ未タ終了セサルトキニ在リテハ被後見人タリシ成年者又ハ其相續人ト後見人トノ間ニ爲シタル契約及ヒ其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲(權利ノ拋棄追認等)ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノト爲シタリ

以上ノ場合ニ於テ外國ノ立法例ニ於テハ取消スコトヲ得可キ法律行爲ノ性質ヲ限定シタルモノアレトモ實際其性質ヲ區別スルコト難キノミナラス各種ノ行爲皆多少ノ危險ヲ存スルカ故ニ寧ロ一切ノ行爲ノ取消ヲ許スコトト爲スノ優レルニ如カサルモノトシ本法ニ於テハ一切ノ行爲ノ取消ヲ許シタルナリ

本條ノ取消ハ當事者雙方ヨリ請求スルコトヲ得ルモノニ非スシテ被後見人タリシ者ニ限ル是レ本條ニ於テ被後見人タリシ者ノ利益ヲ保護スル趣旨ハ無能力者ノ爲シタル行爲ノ取消ヲ其無能力者ノミニ許シ之ヲ其相手方ニ許ササルト同一ナリ

本條ノ規定ハ後見終了ノ總テノ場合ニ適用ス可キモノニ非ス(一)未成年者ノ後見ニ限ル故ニ禁治産者ノ後見ニハ適用セサルナリ(二)後見カ成年ニ達シタルニ因リテ終了スルコトヲ條件トス故ニ被後見人ノ死亡ニ因リテ後見ノ終了シタル場合又後見人ノ死亡、辭任又ハ免黜等ノ場合ニモ適用セサルモノトス

本條ニ規定スル被後見人ノ取消權ハ無能力者ノ取消權ニ非スト雖モ其性質之ニ酷似スルカ故ニ後見人又ハ其相續人カ其追認ヲ求ムルノ權利、取消ノ效力追認ノ效力、取消及ヒ追認ノ方法、取消權ノ時別時效等ニ關シテハ無能力者ノ行爲

又ハ瑕疵アル意思表示ノ取消ニ關スル總則編(第一九條及ヒ第一二一條乃至第一二六條)ノ規定ヲ準用スルコトト爲シタリ而シテ茲ニ適用スト言ハスシテ準用スト言ヒタルハ他ナシ右ノ法條ハ主トシテ無能力者ノ行爲ニ關シタルモノナレトモ本條ハ未成年者カ成年ニ達シ既ニ能力者ト爲リタル後ノ行爲ノ取消ニ關シ其間ニ稍ヤ異ナル所アルヲ以テナリ

○金錢返還ノ義務及ヒ此義務ヲ怠リタル場合ノ制裁―第九百四十條　後見人カ被後見人ニ返還スヘキ金額及ヒ被後見人カ後見人ニ返還スヘキ金額ニハ後見ノ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス(後見人カ自己ノ爲メニ被後見人ノ金錢ヲ消費シタルトキハ其消費シタル時ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要ス尚ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス(人事編第二一〇條)

後見ノ管理ノ計算終了シタルトキハ後見人及ヒ被後見人ハ各直チニ其返還ス可キ金額ヲ拂渡ス可キモノナルヲ以テ若シ之ヲ怠ルトキハ其後見人ヨリ被後見人ニ返還ス可キ金額ト被後見人ヨリ後見人ニ立替金等ヲ返還ス可キトヲ區別スルコトナク孰レモ計算終了ノ時ヨリ當然之ニ利息ヲ附スルコトトセリ蓋

民法(人事編第二一〇條伊太利民法及ヒ佛蘭西民法(第四七四條)等ハ後見人ヨリ返還ス可キモノト被後見人ヨリ返還ス可キモノトニ付キ區別ヲ爲シ後見人ヨリ被後見人ニ返還ス可キ金額ニ對シテハ計算終了ノ時ヨリ當然利息ヲ生スルコトト爲シ其被後見人ヨリ後見人ニ返還ス可キ金額ニ對シテハ計算終了後後見人ノ催告ヲ受ケタル時ヨリ利息ヲ生スルコトト爲シタレトモ被後見人ト後見人トノ間後見關係ノ全ク絶ヘタル後ニ在リテモ此ノ如キ差異ヲ設クルハ公平ヲ缺クヲ以テ本法ニハ右ノ區別ヲ採用セサリシナリ

後見人ハ被後見人ノ金錢ヲ保存シ又ハ被後見人ノ爲メニ之ヲ利殖ス可キモノニシテ自己ノ爲メニ之ヲ消費スルコトハ許サレサル所ナリ然ルニ之ニ拘ラス後見人カ被後見人ノ金錢ヲ消費シタルトキハ其計算終了後(此場合ハ利息ニ付テハ第一項ノ規定ニ依ル)ニ係ルト其以前ニ係ルトヲ問フコトナク不法行爲ニ屬スルヲ以テ敢テ計算ノ終了ヲ待ツコトナク其消費ノ時ヨリ之ニ利息ヲ附シ尚ホ其外損害アリタルトキハ之ヲモ賠償ス可キ責ニ任セシムルハ固ヨリ當然ナリ故ニ例ヘハ被後見人カ後見人ノ保存スル金額ヲ以テ或會社ニ對シ株金ノ

拂込ヲ爲ス可キ場合ニ於テ後見人カ其金錢ヲ消費セシヨリ會社ニ拂込ム可キ金額ナク爲メニ株式ヲ競賣セラレテ損害ヲ被リタルトキハ後見人ハ右法定利息ノ外尙ホ其損害ヲ賠償セサル可カラス是レ不法行爲ノ原則ヨリ生スル當然ノ結果ナリト雖モ本條第一項ニ於テ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附ス可キ旨ヲ規定シタルカ故ニ後見人カ消費シタル場合ニ於テモ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スレハ他ニ最早賠償ノ責ナキカ如キ疑ヲ生スルヲ以テ此疑ヲ豫防スルカ爲メニ第二項ノ規定ヲ設ケタルナリ

本條ノ規定ハ金錢ヲ返還ス可キ場合ニノミ適用セラルルモノニシテ其他ノ財產ヲ返還ス可キ場合ニハ適用セサルナリ而シテ金錢以外ノ財產ヲ消費シテ後見人カ返還ヲ爲サス若クハ之ヲ遲延シタルトキハ損害賠償ニ關スル原則ノ適用ヲ受クルノミ

○後見事務引繼ノ義務――第九百四十一條　第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス(人事編第二〇二條乃至第二〇四條)

法律ハ後見終了ノ場合ニ委任終了ノ場合ニ關スル第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ法律上ノ代理人タル後見人ニ當然適用セラルル可キモノニ非サレトモ其性質上同一規定ニ依ル可キモノナルヲ以テ委任ニ關スルモノヲ茲ニ準用スルコトト爲シタリ故ニ(一)委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者、其相續人又ハ法定代理人ハ委任者、其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要スルカ如ク後見人、其相續人又ハ法定代理人ハ被後見人、其相續人又ハ法定代理人カ自ラ其事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス而シテ此場合ニ於ケル後見人、其相續人、法定代理人ノ權限ハ極メテ狹隘ナルモノニシテ後見人トシテ其任務ヲ行フニ非サルカ故ニ後見ニ關スル規定ヲ適用ス可カラサルヲ原則トスルナリ(二)委任終了ノ場合ニ於テ其終了ノ事由カ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトヲ問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得サルカ如ク後見終了ノ場合ニ於テモ其終了ノ事由カ後見人ニ出テタルト被後見人ニ出テタルトヲ問ハス之ヲ他ノ一方ニ通知シ又ハ他ノ一方カ之ヲ知リタルニ非サレ

ハ之ヲ以テ他ノ一方ニ對抗スルコトヲ得ス例ヘハ後見終了ノ事由カ被後見人ノ方ニ生シタリトセンカ此場合ニ於テ後見人カ之ヲ知ルカ又ハ本人、相續人又ハ其法定代理人ヨリ後見人ニ其通知ヲ爲スニ非サレハ後見人カ其資格アリトシテ爲シタル行爲ニ付キ其越權ヲ咎ムルコトヲ得サルナリ後見終了ノ事由カ後見人ノ方ニ生シタル場合モ亦同シク被後見人、相續人又ハ法定代理人カ之ヲ知レルカ又ハ後見人若クハ其相續人ヨリ其通知ヲ爲スニ非サレハ後見ノ終了ヲ理由トシテ後見人ノ盡ス可キ義務ヲ盡サヽリシニ因リテ生ス可キ責任ヲ辭スルコトヲ得サルナリ

本條ノ規定モ亦ニ第九百三十七條ニ付キ說キタルカ如ク後見ノ任務ハ後見人ノ一身ニ止マリテ其相續人ニ移轉セサルヲ原則トスレトモ被後見人ノ利益保護ノ爲メ必要上此例外ヲ設ケタルナリ

○後見ニ關スル債權ノ時效――第九百四十二條　第八百九十四條ニ定メタル時效ハ後見人、後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル債權ニ之ヲ準用ス〔前項ノ時效ハ第九百三十九條ノ規定ニ依リテ法律行爲ヲ取消シタル場合ニ於テハ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス（人事編第二一一條）〕

後見人、後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル債權ハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ト其子トノ間ニ財產管理ニ付キ生シタル債權ト其性質同一ナルヲ以テ其時效ニ付テモ之ト同一ノ規定ニ從ハシムルコトト爲シ第八百九十四條ニ規定シタルヲ時效ヲ茲ニ準用スルコトト爲シタリ即チ被後見人カ能力者ト爲リタル時若クハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ時效ニ罹ルナリ而シテ本條ニハ廣ク後見ニ關シテ生シタル債權トアルカ故ニ後見人ニ對シテ計算ヲ請求スル權ハ勿論管理ノ計算ノ結果後見人ヨリ被後見人ニ返還ス可キ金額其他後見人カ其職務ヲ怠リタルニ因リテ被後見人ニ對シテ生シタル損害賠償又ハ被後見人ヨリ後見人ニ支拂フ可キ生活費、教育費、管理ノ費用等被後見人ヨリ後見人ニ對スル債權タルト後見人ヨリ被後見人ニ對スルモノトヲ問ハス後見ニ關シテ生シタル債權ハ皆此中ニ包含スルモノトス又後見監督人又ハ親族會カ被後見人トノ間ニ於ケル債權モ亦同シキナリ

後見終了ノ後、管理ノ計算ヲ終ラサル以前ニ於テ被後見人ト後見人ト爲シタル

契約又ハ被後見人カ後見人ニ對シテ爲シタル單獨行爲ヲ第九百三十九條ノ規定ニ依リ取消シタルニ因リテ債權ヲ生シタルトキハ其債權ノ時效ハ第一項ノ規定ニ從フコト能ハサルヲ以テ特ニ第二項ヲ設ケ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算スルコトトシタリ

○保佐ニ關シテ生シタル債權ノ時效――第九百四十三條　前條第一項ノ規定ハ保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者トノ間ニ之ヲ準用ス

保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者トノ間ノ保佐ニ於ケル關係ハ恰モ後見人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ノ後見ニ於ケル關係ニ同シキカ故ニ其關係ニ依リテ生シタル債權ノ時效ノ規定ヲ茲ニ準用スルコトト爲シタリ

## 第七章　親族會

親族會トハ之ニ依リテ保護セラルル者ノ親族其他之ト緣故アル者ヲ以テ組織スル機關ニシテ其者又ハ其家ニ重大ナル關係アル事項ヲ議決スルモノナリ而シテ從來ニ於テハ被後見人ノ不動產ヲ讓渡スコトニ付キ親族ノ連署ヲ要ス可キコトヲ明治十六年內務省番外達此達ハ一般人民ヲシテ遵守セシム可キ效力ヲ有セス)ヲ以テ定メテヨリ以來後見人ノ不動產ヲ讓渡ストキハ親族ノ連署ヲ要スルコトノ慣習ヲ生シ若シ之ナキモノハ其讓渡ハ取消スコトヲ得可キモノトセリ又父又ハ母カ選定シタルニ非スシテ被後見人ノ爲メニ後見人ヲ選任ス可キ場合ニハ親族相集リテ之ヲ選任ス可キ慣習モアリタレトモ是レ皆一ノ慣習タルニ過キスシテ從來ハ法律上親族會ノ認メラレタルモノ絕ヘテ之ナカリシモノニシテ民法ノ此規定ハ我邦ニ於テ法律ヲ以テ親族會ヲ認メタルノ嚆矢トスルナリ

本章ノ規定ハ法律若クハ命令ノ規定ニ依リ開ク可キ一切ノ場合ニ適用セラルルモノトス故ニ本法ニハ之ヲ一章ト爲シタレトモ舊民法(人事編第一七一條乃至第一七七條其他外國ノ立法例ニハ之ヲ後見ノ機關トシテ規定スルモノ多シト雖モ獨リ後見ノ場合ニ限ラス其他ノ場合ニ於テモ同一ノ規定ニ從フ可キモノナルカ故ニ本法ニハ右ノ如ク一章ト爲シタルナリ

○親族會ノ招集――第九百四十四條　本法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開

クヘキ場合ニ於テハ會議ヲ要スル事件ノ本人、戸主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ招集ス(人事編第一七二條、第一七三條、第一七六條、第一七七條、非訟事件手續法第九六條乃至第九八條)

親族會ノ招集ニ付テハ外國ニ於テモ裁判所之ヲ招集スルモノ多キカ故ニ本法ニ於テモ亦其例ニ倣ヒ親族會ハ無能力者ノ爲メニスルモノト其他ノ者ノ爲メニスルモノトヲ問ハス之ヲ招集スルニ當リテハ必ス裁判所之ヲ招集ス可キモノトセリ唯無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ最初一回ヲ限リ裁判所之ヲ招集シ其以後ニ於テハ會議ヲ要スル毎ニ會員其他ノ者ヨリ之ヲ招集スルモノトセリ無能力者ニ非サル者ノ爲メニ親族會ヲ開ク可キ場合ハ成年ノ子(第七百七十二條ニ規定セル成年者ニ限ルカ婚姻ヲ爲サントスルニ當リ繼父母又ハ嫡母カ同意ヲ爲ササルトキ(第七七三條)滿第二十五年ニ達セサル子カ協議上ノ離婚ヲ爲ストキ(第八〇九條)成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ養子ト爲ル場合ニ於テ繼父母又ハ嫡母カ同意ヲ爲ササルトキ(第八四三條、第八四六條)成年ノ子カ協議上ノ離緣ヲ爲スニ當リ右ノ親カ同意ヲ爲ササルトキ(第八六三條)ノ如キ是ナリ



無能力者ノ爲メニ設クル親族會ト其他ノ者ノ爲メニ設クル親族會トノ間ニ存スル差異ヲ解說センニ無能力者ノ爲メニハ屢開會ス可キ必要アルヲ以テ最初一回裁判所之ヲ招集シ其以後ニ於テハ最初裁判所カ定メタル會員ハ其資格ヲ失フマテハ長ク之ヲ繼續スレトモ無能力者以外ノ者ノ爲メニ設クル親族會ハ屢之ヲ開ク可キ必要ナキヲ常トスレハ會議ヲ要ス可キ事件ノ生シタル度毎ニ其會員ハ裁判所ニ於テ選定セラルルモノナルカ故ニ此會員ハ毎會變更スルコトアル可ク而シテ其招集ハ既ニ說キタルカ如ク必ス裁判所ニ於テ爲ササル可カラサレトモ無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ最初ノ一回ヲ除キ次回ヨリハ裁判所ノ手ヲ煩ハスコトアラサルナリ

招集ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ會議ヲ要スル事件ノ本人(例ヘハ無能力者ノ爲メニ開ク可キ場合ニ於テハ其無能力者、前ニ擧ケタル例ニ於テ婚姻又ハ養子緣組ヲ爲サントスル成年ノ子ノ爲メニ開ク可キ場合ニ於テハ其者ナリ)本人ノ家ノ戸主、親族、後見人、後見監督人、保佐人(準禁治產者ノ爲メニ開ク可キ場合ニ限ル)公益ノ代表者タル檢事及ヒ其利害關係人等是ナリ而シテ法律ハ廣ク利害關係

人ニモ親族會ノ招集ヲ請求スルコトヲ許シタルカ故ニ被後見人ノ親族及ヒ公私益ノ保護者タル者ニ限ラス何人ト雖モ親族會ノ招集ニ付キ利害關係ヲ有スルコトヲ證明スルトキハ其招集ヲ請求スルコトヲ得可シ例ヘハ被後見人ノ不動產ヲ買受ケント欲スル者ハ後見人カ其賣買ヲ承諾シタルニ拘ラス親族會ノ招集ヲ爲ササルトキハ其買主ハ自ラ之カ招集ヲ請求スルコトヲ得可キナリ

○親族會員ノ選定及ヒ其員數――第九百四十五條　親族會員ハ三人以上トシ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ裁判所之ヲ選定ス(後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得(人事編第一七一條第一項第一七四條)

親族會員ノ員數ニ付テハ外國ノ立法例ニ於テハ或ハ之ヲ一定スルモノアリ或ハ之ヲ一定セサルモノアリ佛蘭西民法(第四〇七條)ハ會長治安裁判所判事ノ外六人トシ獨逸民法(第一八六〇條)ハ會長ノ外二人以上六人以下トセリ而シテ豫メ其員數ヲ定ムルトキハ其人員ヲ得難キコトアル可ク又ハ其人員ヨリ多クノ員數ヲ以テ組織スルヲ要スル場合モアル可シ敢ニ本法ニ於テハ單ニ其最少限ノミヲ定メ之ヲ三人以上トシ其最多限ニ付テハ制限ヲ設ケサリシナリ故ニ七人若クハ十人ノ會員ヨリ組織センコトヲ希望スルトキハ裁判所之ヲ必要トシタル場合ニ於テハ以上ノ如キ員數ヨリ成立スルコトアル可キナリ其會員タル者ハ親族タルヲ常トシ多クハ最近ノ親族タル可シト雖モ之ヲ親族ニ限ルコトト爲ストキハ親族少キ者ハ三人以上ノ親族ヲ得難キコトアリ故ニ其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ト爲シタリ法律ニハ會員ニ充ツ可キ親族ノ不十分ナルトキニ非サレハ會議ヲ要スル本人又ハ其家ニ緣故アル者ヲ選定スルコトヲ得スト規定セサルヲ以テ會員ニ充ツ可キ親族ノ員數十分ナルトキト雖モ最初ヨリ緣故アル者ヲ選定スルコトノ妨アラサルナリ而シテ其會員ハ裁判所之ヲ選定スルモノトス(非訟事件手續法第九六條乃至第九八條)

本人ニ緣故アル者トハ其友人、其雇主若クハ雇人、其父母ノ友人等ノ如キ是ナリ其家ニ緣故アル者トハ本人ニハ何等ノ關係ナシト雖モ本家、分家、同家、舊藩主ト藩臣ノ間柄、商家ニ於テ暖簾分ケヲ受ケタル家ト其主家トノ如キ、其先代ノ友人等是ナリ

親族會員ノ選定ハ以上ノ如ク裁判所之ヲ爲スヲ本則ト爲スト雖モ後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者即チ第九百一條ニ規定スル者未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者若クハ親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財產ノ管理ヲ辭シタルトキハ父)ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得ルモノトセリ若シ此選定權ヲ有スル者カ會員ノ全部ヲ選定セサルトキハ裁判所ニ於テ其殘員ヲ選定スルモノトス而シテ此遺言者カ親族會員ヲ選定スルニハ普通ノ場合ノ如ク被選者ニ付キ制限ナキヲ以テ親族ニ非サル者其他本人又ハ家ニ何等ノ關係ナキ者ヲモ選定スルコトヲ得可キナリ

普通ノ場合ニ於テ招集セラレタル親族會ハ其會議ノ議決ヲ終了シタルトキハ之ニ因リテ當然解散シ其會員ハ之カ資格ヲ失フモノニシテ其後更ニ親族會ヲ招集スル必要ヲ生シタルトキハ更ニ其會員ヲ選定スルモノトス然レトモ無能力者ノ爲メニハ屢〻親族會ヲ招集スル必要アルカ故ニ此親族會ニ限リテハ其無能力ノ止ムマテ會員裁判所ノ選定シタル者ト遺言ヲ以テ選定セラレタル者トヲ問ハス)ノ資格ハ繼續スルモノトス(第九四九條)

親族會ヲ招集ス可キ場所ハ法律ヲ以テ別ニ之ヲ定メサルカ故ニ裁判所ノ見込ヲ以テ或ハ之ヲ裁判所內ニ於テシ或ハ他ノ場所ヲ定メ或ハ會員ノ協議ニ任スルコトヲ得可シ而シテ本法ニ於テハ裁判所カ親族會ニ干涉スルハ單ニ之ヲ招集スルニ過キサル(無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ最初一回ノミ裁判所之ヲ招集ス)モノニシテ佛獨其他ノ立法例ノ如ク判事ハ其會議ニ關係ヲ爲ササルカ故ニ實際ニ於テハ裁判所內ニ於テ會議ヲ開クコトハ極メテ稀ナル可シ

○親族會員タル義務ノ免除及ヒ其不能力——第九百四十六條　遠隔ノ地ニ居住スル者其他正當ノ事由アル者ハ親族會員タルコトヲ辭スルコトヲ得(後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會員タルコトヲ得ス)第九百八條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス(人事編第一八〇條乃至第一八二條)

本條ニ於テ親族會員タルコトヲ辭シ得ル原因及ヒ親族會員タルコトヲ得サル原因ヲ規定シタリ親族會員タルコトハ後見人及ヒ後見監督人タルコトノ職務ノ如ク法律上ノ强制負擔ナリ而シテ後見人及ヒ後見監督人ニ付テハ曩ニ說キタルカ如ク第九百七條ニ於テ後見人タルコトヲ辭シ得ル原因(後見監督人亦同

シ)第九百八條ニ於テ後見人タルコトヲ得サル者後見監督人タルコト亦同シ)ヲ規定シタレトモ後見人ト親族會員トハ其性質ヲ異ニスルカ故ニ後見人ニ關スル右ノ規定ヲ直チニ茲ニ準用スルコトヲ得ス今法律カ後見人ノ規定ト區別シタル理由ヲ左ニ敘述セン

(一)法律カ後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ル原因トシテ規定シタルモノハ五箇アレトモ親族會員ハ後見人ノ如ク繁忙ナルモノニ非ス亦其責任モ後見人ノ如ク重大ナラサルカ故ニ其原因ヲ極メテ縮少シ唯遠隔ノ地ニ居住スル者ト其他正當ノ事由アル者(後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ル第五ノ原因)トニ親族會員タルヲ辭スルコトヲ許セリ法律カ遠隔ノ地ニ居住スル者ニ親族會員タルコトノ義務ヲ免除シタルハ若シ此ノ如キ者ニ強テ會議ニ列セシメント欲スルトキハ時日ト費用トヲ要シ其者ノ爲メニハ重大ナル負擔タルコトアルヲ以テナリ故ニ後見人カ任務ヲ辭スルコトヲ得ル原因トシテ規定セル(一)軍人トシテ現役ニ服スルコト(二)被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコト其他第九百七條第三號及ヒ第四號ノ事由ハ法律ハ之ヲ正當ノ原因ト認メサリシヲ以テ此等ノ事由アリト雖モ當然親族會員タルコトヲ辭スルヲ得ス然レトモ此等ノ事由アリタルトキ若シ裁判所ニ於テ之ヲ正當ノ事由ト認メタルトキハ之ニ因リテ其會員タルヲ辭スルコトヲ得可シ而シテ如何ナル事由カ正當ナルヤハ一ニ裁判所ノ査定ニ任セリ(非訟事件手續法第一〇〇條(第一〇一條))

(二)親族會員タルヲ得サルコトニ付テハ後見人タルコトヲ得サル規定(第九〇八條)ヲ茲ニ準用スルコトトシタルカ故ニ(一)未成年者(二)禁治產者及ヒ準禁治產者(三)剝奪公權者及ヒ停止公權者(四)裁判所ニ於テ免黜セラレタル法定代理人又ハ保佐人(五)破產者(六)會議ヲ要スル事件ノ本人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族(七)行方ノ知レサル者(八)裁判所ニ於テ親族會員タルコトニ堪ヘサル事跡不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認メタル者等ハ親族會員タルコトヲ得サルナリ而シテ此外尙ホ後見人後見監督人及ヒ保佐人モ親族會員タルコトヲ得サルモノトス是レ他ナシ此等ノ者ハ或ハ親族會ノ監督ヲ受ク可ク或ハ親族會ト相俟チテ監督ノ機關タル可キ者ナルカ故ナリ但シ此等ノ者ハ第九百四十八條ニ規定スルカ如ク親族會ニ於テ自己ノ意見ヲ陳述

スルコトヲ得可キナリ

○親族會ノ決議――第九百四十七條　親族會ノ議事ハ會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス(會員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス(人事編第一七五條)

親族會ノ議事ハ會員ノ一致ヲ以テ決セントスルモ其一致ヲ得ルハ困難ナル可ク又四分ノ三若クハ三分ノ二トスルカ如キハ細密ニ失スルヲ以テ本法ニ於テハ過半數ヲ以テ決スルコトトシタリ故ニ例ヘハ會員三名ナルトキハ二名ノ一致アルコトヲ要シ若シ會員五名ナルトキハ三名以上ノ一致アルコトヲ要ス而シテ本條ニハ會員ノ過半數ヲ以テ決ストアルカ故ニ會議ニ出席シタル會員ノ員數ヲ問フコトヲ要セサルモノニシテ會員ノ過半數出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得サルナリ是ヲ以テ出席會員過半數ニ充タサルトキハ如何ニ急ヲ要スル場合ト雖モ如何トモスルコト能ハサルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ第九百五十二條ニ依リ會員ハ其決議ニ代ル可キ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルヨリ外アラサルナリ

後見人、後見監督人及ヒ保佐人ニ非サル者ハ親族會員タルコトヲ得レトモ其議事ニシテ自己ノ利害ニ關係ヲ有スルトキハ之カ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス若シ此ノ如キ制限ヲ爲ササルトキハ自己ノ利害關係ヲ有スル會員ハ會議ヲ要スル本人ノ利益ヲ圖ラスシテ專ラ自己ノ利益ノミヲ圖ル可キハ人情ノ常ナルヲ以テ此ノ如キ者ハ其議事ノ表決ノ數ニ加ハルコトヲ許ササルモノトセリ例ヘハ無能力者ノ不動產ヲ買受ケントスル親族會員ハ第八百八十六條ノ親族會ノ決議ニ加ハルコトヲ得サルカ如キ是ナリ

○親族會ニ於テ意見ヲ述フルコトヲ得ル者――第九百四十八條　本人、戶主、家ニ在ル父母、配偶者、本家並ニ分家ノ戶主、後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會ニ於テ其意見ヲ述フルコトヲ得(親族會ノ招集ハ前項ニ揭ケタル者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス(人事編第一七一條第二項)

本條ニ於テハ親族會員ニ非スシテ親族會ニ列シ意見ヲ述フルコトヲ得ル者ヲ規定セリ蓋シ本人、戶主、家ニ在ル父母、配偶者、本家並ニ分家ノ戶主、後見人、後見監督人及ヒ保佐人等ハ皆親族會ノ議事ニ付キ重大ナル利害關係ヲ有スルヲ常ト

スルカ故ニ親族會ニ列シ意見ヲ述フルコトヲ得ルコトトセリ然レトモ唯其意見ヲ述フルニ止マリ表決ニ加ハルコトヲ得サルコトハ言フヲ俟タサルナリ而シテ此等ノ事ハ以上ノ如ク意見ヲ述フル權ヲ有スルカ故ニ其意見ヲ述フル機會ヲ得セシメンカ爲メニ親族會ヲ招集スル毎ニ必ス之ヲ此等ノ人ニ通知スルコトヲ要スルモノトセリ故ニ此等ノ者ニ親族會招集ノ通知ナクシテ親族會ヲ開キタルトキハ此等ノ者(分家ノ戸主ヲ除ク)ハ第九百五十一條ニ依リ其決議ニ對スル不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得可キナリ

○無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會―第九百四十九條　無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ其者ノ無能力ノ止ムマテ繼續ス此親族會ハ最初ノ招集ノ場合ヲ除ク外本人、其法定代理人、後見監督人、保佐人又ハ會員之ヲ招集ス(人事編第一七二條)

親族會ハ獨リ無能力者ノ爲メニ設クルニ非ス其他ノ場合ニ於テモ招集スルコトアル可シト雖モ其場合ハ極メテ稀ナルカ故ニ會議ヲ要スル事項ヲ議了シタルトキハ直チニ解散ス可キモノニシテ曩ニ第九百四十四條ニ於テ叙述シタルカ如ク其會員ハ當然其資格ヲ失フ故ニ其後ニ於テ更ニ會議ヲ要スルコト生シタルトキハ更ニ會員ヲ選定シテ之ヲ招集スルモノトス然レトモ無能力者(未成年者、禁治產者、準禁治產者)ノ爲メニハ屢親族會ヲ開ク可キ必要アルカ故ニ其招集ノ度毎ニ裁判所ヲシテ其會員ヲ選定セシメ其招集ヲ爲サシムルハ煩ニ堪ヘサルナリ是ヲ以テ此場合ニ於テハ親族會ハ無能力ノ繼續スル間繼續スルモノトシ最初一旦裁判所ニ於テ之ヲ招集シタル後ハ無能力者カ成年ニ達シ或ハ其能力ヲ回復スルニ至ルマテ會員ハ其資格ヲ繼續シ會議ノ都度改選セサルコトトセリ而シテ普通ノ場合ニ於テハ招集ノ都度裁判所親族會ヲ招集スルヲ常トスレトモ無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ最初一回限リ裁判所之ヲ招集シ其後ニ於テハ本人、其法定代理人、後見監督人、保佐人又ハ會員ヨリ之ヲ招集スルコトヲ得ルモノトセリ而シテ招集ノ場所ノ如何ニ付テハ曩ニ第九百四十四條ニ付キ之ヲ叙述シタレハ今復タ叙述セサルナリ

○親族會員ノ補缺選定―第九百五十條　親族會員ニ缺員ヲ生シタルトキハ會員ハ補缺員ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス(非訟事件手續法第九九條)

無能力者以外ノ者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ其議事ノ終ルト同時ニ解散スルモノナルヲ以テ其會ノ繼續中ニ缺員ヲ生スル場合稀ナル可シト雖モ此場合ニ於テモ缺員ノ生スルコト全ク之ナシトセス無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ無能力ノ繼續スル間繼續スルカ故ニ其會員ニ缺員ヲ生スルコト屢ナル可シ然ルニ其都度其會ヲ解散シテ新ニ總會員ヲ選定スルハ理由ナキヲ以テ此場合ニ於テハ會員ヨリ單ニ補缺員ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要スルモノトシタリ而シテ補缺員ヲ選定スルコトヲ得ル者ハ或ハ一般ノ親族ナリトシ或ハ親族會ノ會長トセントスルモノアリ或ハ親族會トスルモノアリト雖モ本法ハ其會員ヨリ之ヲ選定ノ請求ヲ爲スコトトシタリ

親族會員ニ缺員ヲ生シタルトキハ會員ハ其議事ヲ中止セサル可カラサルモノニシテ若シ補缺員ノ選定アラサル間ニ在リテ會議ヲ繼續シタルトキハ縱令其員數三人以上ナリト雖モ其會議ハ有效タラサル可キナリ例ヘハ親族會員七人ナル場合ニ於テ其中一人ハ死亡シ一人ハ辭任シ五人ト爲リタルトキハ第九百四十五條ニ規定シタル員數ニ滿フルト雖モ選定者ニ於テ會員ヲ七人ト定メタル場合ニ於テハ其員數ハ必ス七人アルコトヲ要スルカ故ニ此場合ニ二人ノ缺員アルトキハ其會議ハ有效ナラサルモノトス

○親族會ノ不當決議ニ對スル救濟法＝第九百五十一條　親族會ノ決議ニ對シテハ一个月內ニ會員又ハ第九百四十四條ニ揭ケタル者ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得

本條ニ於テハ親族會ノ決議ニ對シテ不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ許セリ本法ニ於テハ裁判所ハ親族會ノ招集及ヒ其會員ノ選定ニ付キ干涉スルニ止マリ其議事ノ如キハ全ク之ヲ親族會ニ一任シ毫モ之ニ干涉セサルヲ以テ親族會カ如何ニ不當ナル決議ヲ爲スヤモ計リ知ル可カラサルナリ而シテ外國ノ立法例ニ於テハ裁判官親族會ノ議長トナリ之ヲ監督スルニ拘ラス其決議ニ對シテ不服ヲ訴フルコトヲ許セリ況ヤ我邦ノ如ク裁判官カ親族會ニ干涉セサルニ其決議ニ對シテ不服ヲ訴フルコトヲ得サルモノトスルトキハ其危險甚タ大ナル可キヲ以テ本人、戶主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得ルモノトシタリ而シテ其不服ヲ唱フル方法ハ訴

訟ヲ以テセサル可カラサルモノニシテ其提起ノ期間ニ付テハ制限ヲ設ケタリ若シ親族會ノ決議ニ對シテ期間ノ制限何時マテモ例ヘハ決議アリテヨリ三年若クハ五年ノ後ニ至リ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトスルトキハ既ニ落著シタル事項ヲ再ヒ問題トシ又ハ既ニ執行シタル事項ヲ舊ニ復セサルヲ得サルニ至ル可キヲ以テ決議後一个月内ニ其不服ヲ訴フ可キコトト爲シタリ

本法ニハ親族會ニ出席セサル會員ニ會議ノ結果ヲ通知ス可キ規定ナク而シテ訴ヲ提起スル期間ハ決議ヲ知リテヨリト非サルヲ以テ闕席シタル會員カ其決議ヲ知ラサルニ拘ラス訴ノ提起ノ期間ハ其決議ノ時ヨリ起算ス可キモノニシテ會員カ其決議アリタルコトヲ知ル前ニ其期間ノ經過スルカ如キ不都合ノ生スルコトアル可シ殊ニ二三ノ會員カ申合セ他ノ一二ノ會員ニ招集ノ通知ヲ爲サスシテ會議ヲ開キ而シテ不當ノ決議ヲ爲シタル場合ノ如キハ訴訟提起ノ期間ハ招集ノ通知ヲ受ケサル會員カ決議ノアリタルコトヲ知ラサル間ニ經過スルコト多カル可クシテ之ヲ救濟スル途ナキハ缺點ト云ハサル可カラサルナリ

不服ヲ申立ツ可キ裁判所ノ管轄ハ非訟事件手續法第九十六條乃至第九十八條ニ之ヲ規定セリ

○親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於ケル救濟法――第九百五十二條

親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ會員ハ其決議ニ代ハルヘキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得（人事編第一七六條）

親族會員カ旅行、疾病其他ノ事由ニテ開會スルヲ得サルコトアリ或ハ會議ヲ開クモ過半數ヲ得サルコトアリテ之カ爲メニ必要ノ決議ヲ爲ス能ハサルトキハ會員ヨリ其決議ニ代ル可キ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノトセリ是レ會議ヲ要スル本人保護ノ爲メニ至當ノ規定ナリ而シテ此請求ヲ爲スコトヲ得ル者ハ會員ニ限リ其他ノ親族後見人等ハ此請求權ヲ有セサルナリ然レトモ裁判所カ親族會ノ決議ニ代ル可キ裁判ヲ爲シタルトキハ之ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ此抗告ハ獨リ親族會員ニ限ラス第九百四十四條ニ掲ケタル者即チ本人、戸主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ヨリモ爲スコトヲ得ルモノトス（非訟事件手續法第一〇二條）

○親族會員ノ責任――第九百五十三條　第六百四十四條ノ規定ハ親族會員ニ之

ヲ準用ス

本條ハ親族會員ノ責任ヲ定メタルモノニシテ其責任ハ受任者ノ責任ニ同シキモノトセリ即チ受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ(第六四四條)モノニシテ本法ニ於テハ之ヲ後見人ニ準用シ(第九三六條)又後見監督人ニモ之ヲ準用シ(第九一六條)タレハ同一ノ主意ニ基キテ之ヲ親族會員ニモ準用シタルナリ是ヲ以テ親族會員ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス例ヘハ親族會ニ於テ後見人、後見監督人、保佐人等ヲ選任スルトキ不注意ニ依リ不適任者ヲ選任シタルカ如キ又無能力者ノ不動產ヲ賣却セントシ其可否ヲ決スルニ當リ相當ノ注意ヲ以テ其賣却ノ時機及ヒ代價等ノ調査ヲ爲サスシテ後見人ノ發議ニ從ヒ容易ク之カ決議ヲ爲シタルカ如キ場合ニ於テ之カ爲メ損害ヲ生シタルトキハ親族會員ハ之ヲ賠償セサル可カラサルナリ但シ親族會員ノ中其決議ニ同意ヲ爲ササル者アルトキハ其者ハ責任ナク唯其決議ニ同意ヲ爲シタル者ノミ責任ヲ負フ可キハ論ヲ俟タサルナリ

## 第八章　扶養ノ義務

本章ニ於テハ或親族間ニ互ニ扶養ヲ爲スノ義務アルコト、其義務ノ順位、其程度、方法等ヲ規定セリ而シテ戸主ハ家族ニ對シテ扶養ノ義務アルコトハ戸主權ノ規定中(第七四七條)ニ規定シアリ又夫婦ハ互ニ扶養ノ義務アルコトハ婚姻ノ效力中(第七九〇條)ニ規定シアリテ本章以外ニ於テモ扶養ノ義務ヲ負フ者アリト雖モ其義務ノ順位其程度方法等ニ付テハ亦本章ノ規定ニ依ル可キモノトス

扶養ノ義務トハ自己ノ資力ニ依リテ生活ヲ爲シ又ハ教育ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテ其生活ノ資ヲ供シ又ハ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ニ教育ヲ受ケシムル義務ナリ舊民法(人事編第二六條乃至第二九條)ニ於テハ養料ノ義務ナル文辭ヲ用ヒタレトモ其意味ハ本來金錢ニ關スルモノニシテ甚タ狹ク教育及ヒ其權利者ヲ引取リテ世話スル事ヲ包含セサルヲ以テ本法ニ於テハ扶養ナル文辭ヲ用ヒ扶養義務者ハ必スシモ金錢ヲ與フルコトヲ要セサルノ意ヲ明カニシタルナリ

親族相互ノ間ニ法律上ノ義務トシテ扶養ノ義務ヲ認ムルハ至當ノ規定ナリ蓋ニ自ラ生活スルコト能ハスシテ救助ヲ要スル者アリトセン歟若シ親族ニシテ之ヲ救助セスンハ社會即チ國又ハ地方自治體ニ於テ救助セサル可カラサルニ至ル可ケレトモ此ノ如キハ到底其財力ノ能ク堪フル所ニ非ス國家ト雖モ自活ヲ爲スコト能ハサル者ニ對シテハ扶養ヲ爲ス可キ義務アリト雖モ是レ已ムヲ得サル場合ニ存スルモノニシテ他ニ之ヲ扶養ス可キ者アルニ於テハ先ツ之ヲシテ其扶養ヲ爲サシムルハ當然ナリ故ニ親族ハ自然ノ愛情アルニ因リ相互ニ扶養ス可キモノトセリ而シテ此義務ヲ法律上ノ義務ト爲サスシテ親族ノ德義ニ一任スルトキハ不德義者ハ父母妻子ノ飢餓ニ迫ルヲ見テ之ヲ顧ミサルトモ如何トモスル能ハサルヲ以テ之ヲ民法ニ規定シ法律上ノ義務ト爲シタルナリ然レトモ扶養ノ義務ハ如何ニ至當ナリトスルモ其範圍ニ至リテハ親族ノ遠近ヲ斟酌シテ之ヲ定メサル可カラサルカ故ニ法律ハ其必要ト認メタル範圍内ニ於テ此義務ヲ認メタリ

○扶養義務者――第九百五十四條　直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間亦同シ

（人事編第二六條、第二七條）

親族相互ニ扶養ヲ爲スコトハ自然ニ出ツト雖モ今日ニ在リテハ生計ヲ營ムコト昔日ノ如ク容易ナラサルカ故ニ人ヲシテ猥ニ扶養ノ義務ヲ負擔セシム可キニ非ス故ニ法律上扶養ノ義務アル者ハ之ヲ制限セサルトキハ親族中富裕ノ者アレハ舉族之ニ寄食シ富者ハ其負擔ニ堪ヘサルニ至ル是ヲ以テ民法ニ於テハ其範圍ヲ狹クシ直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲スノ義務ヲ負フモノトセリ而シテ是迄屢說クカ如ク養親又ハ其直系尊屬ト養子、繼父母ト繼子及ヒ嫡母ト庶子トハ血族ニ準セラルルカ故ニ其間相互ニ扶養ノ義務アルモノトス又直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ其家ニ在ルト否トノ區別アラサルナリ故ニ養子緣組ニ因リテ他家ニ入リタル者ト實家ニ在ル父母祖父母トノ間又他家ニ嫁シタル姉ト養子緣組ニ因リテ他家ニ入リタル弟トノ間ハ家ヲ異ニスルニ拘ラス互ニ扶養ノ義務ヲ負フ夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ尊屬親トノ間ハ其家ヲ同シウスルトキニ限リ此義務

ヲ負フ例ヘハ他家ニ嫁シタル女ハ其家ニ在ル夫ノ父母亦父母トノ間、他家ノ入夫ト爲リタル男ハ其家ニ在ル父母祖父母等トノ間ニ於テ相互ニ扶養ノ義務ヲ負フ然レトモ夫婦ノ一方ハ縱令他ノ一方ニ直系尊屬アリト雖モ家ヲ異ニスルトキハ其者トノ間此義務ナキモノトス夫婦ノ一方ノ直系尊屬ニシテ家ニ在ル者ト他ノ一方トハ慣習上殆ト自己ノ直系尊屬ト同一視シ又其尊屬ヨリモ自己ノ直系卑屬ト同一視スルカ故ニ以上ノ如ク規定シタリ

○扶養義務者ノ順位―第九百五十五條　扶養ノ義務ヲ負フ者數人アル場合ニ於テハ其義務ヲ履行スヘキ者ノ順序左ノ如シ

第一　配偶者

第二　直系卑屬

第三　直系尊屬

第四　戸主

第五　前條第二項ニ掲ケタル者

第六　兄弟姉妹

直系卑屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テハ其親等ノ最モ近キ者ヲ先ニス前條第二項ニ掲ケタル直系尊屬間亦同シ(人事編第二八條)

同一ノ人ニ對シテ數人ノ扶養義務者アルコト少シトセス例ヘハ同時ニ卑屬、配偶者及ヒ兄弟姉妹及ヒ直系尊屬等アルコトアリ又同一種ノ義務者ノ數人アルコトアリ例ヘハ卑屬數人アリ又ハ兄弟姉妹數人アリ此ノ如キ場合ニ於テハ其中何人カ最モ先ニ扶養ノ義務ヲ盡ス可キヤヲ定ムルハ必要ナリ而シテ元來此扶養ノ義務ナルモノハ德義ト自然ノ人情トニ基クモノナルカ故ニ其順位ヲ定ムルニ付テモ亦德義ト自然ノ人情トニ基カサル可カラス是ヲ以テ第一、配偶者第二、直系卑屬第三、直系尊屬第四、戸主第五、配偶者ノ直系尊屬及ヒ直系卑屬ノ配偶者第六、兄弟姉妹ト爲シタリ外國ニ於テハ直系尊屬ヲシテ直系卑屬ヨリ先ニ義務ヲ負ハシムルモノナシトセサレトモ我邦ニ於テハ孝ナルモノ社會道德ノ基本タルヲ以テ現今ノ慣習ニ從ヒ直系卑屬ヲ直系尊屬ヨリ先ニ爲シタル所以ナリ又戸主ハ家族ト其親族關係如何ニ關シト雖モ第四ノ順位ニ於テ義務ヲ盡ササル可カラス是レ我邦家族制度ヨリ生スル結果ナリ

直系卑屬數種アリ又直系尊屬數種アリ例ヘハ子ト孫トアリ父ト祖父トアルコトアリ此場合ニ於テハ子ハ孫ヨリ先ニ義務ヲ盡サヽル可カラス又父ト祖父トノ間ニ於テハ父ハ祖父ニ先テヲ此義務ヲ盡サヽル可カラス又配偶者ノ直系尊屬ニシテ家ニ在ル者モ亦同シキナリ此順位モ亦自然ノ人情ニ基キタルニ外ナラサルナリ

法律カ本條ニ於テ定メタル順位ニ在ル者ハ自己ノ資力ヲ盡シテモ後ノ順位ニ在ル者ヲシテ義務ヲ盡サシメスシテ自己獨リ此義務ヲ盡サヽル可カラサルヤ若シ順位ノ先ニ在ル者ニシテ扶養義務ヲ盡スニ十分ナル資力アルトキハ此者ノミニ於テ其義務ヲ盡サヽル可カラサルハ勿論ナレトモ若シ其義務者ニシテ全ク無資力ナルニハ非サレトモ一人ニテ其義務ヲ盡ス資力ナキトキハ其足ラサル所ハ其第二順位ニ在ル者之ヲ補足ス可キモノトス又第一順位ニ在ル者ニシテ全ク無資力ナルトキハ最初ヨリ第二順位ニ在ル者一人ニ於テ全部ノ義務ヲ盡サヽル可カラス

○扶養義務ノ分擔――第九百五十六條　其同順位ノ扶養義務者數人アルトキハ各其資力ニ應シテ其義務ヲ分擔ス但家ニ在ル者ト家ニ在ラサル者トノ間ニ於テハ家ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

直系卑屬及ヒ直系尊屬ノ如ク同一順位ノ扶養義務者中親等ヲ異ニスル者アルトキハ其親等最モ近キ者ヲ先ニスルコトハ前條ニ規定スレトモ親等ヲ異ニセサル同一順位ノ扶養義務者數人アルトキハ其中何人カ此義務ヲ盡ス可キヤ將タ共同シテ之ヲ盡ス可キヤヲ定メサル可カラス法律ハ此ノ如キ場合ニ於テハ各資力ニ應シテ其義務ヲ分擔スヘキモノトセリ例ヘハ子數人アルトキハ其各人之ヲ分擔セサル可カラス又父母實父母養父母繼父母數人アルトキ兄弟姉妹數人アルトキモ亦同シキナリ而シテ此規定ニ依リテ各義務者カ分擔ス可キ高ハ必スシモ皆同一ナルモノニ非ス換言スレハ子三人アリテ父ヲ扶養シ其額一个月三十圓ヲ要スル場合ニ於テ必スシモ子カ平等ノ割合ヲ以テ各十圓ヲ負擔ス可キモノニ非ス各人ノ資力同一ナルニ於テハ平等ニ之ヲ負擔スルハ當然ナリ然レトモ若シ各人ノ資力同一ナラサルトキハ各其資力ニ應シテ負擔セサル可カラス故ニ一个月甲(長子)ハ百圓ノ收入ヲ得乙(次男)ハ五十圓丙(三男)ハ三十圓

ヲ得ルトキハ右扶養ニ要スル三十圓ヲ之ニ比例分擔セサル可カラス

同一順位ノ扶養義務者中扶養義務者ト家ヲ同シウスル者ト然ラサル者トアリタルトキ例ヘハ父ヲ扶養スル場合ニ於テ其家ニ在ル子ト養子縁組又ハ婚姻等ニ因リテ他家ニ在ル者トノ間ニ於テハ先後ノ區別ヲ爲ササル可カラス又子カ扶養ヲ受クルニ當リ其義務者トシテ其家ニ養父ト實家ニ實父アル場合ニ於テモ同シク扶養ノ義務ヲ盡スニ付キ先後ノ區別ヲ爲ササル可カラス即チ家ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス是レ亦家族制度ヨリ生スル結果ト云フコトヲ得可シ

○扶養權利者ノ順位――第九百五十七條　扶養ヲ受クル權利ヲ有スル者數人アル場合ニ於テ扶養義務者ノ資力カ其全員ヲ扶養スルニ足ラサルトキハ扶養義務者ハ左ノ順序ニ從ヒ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第一　直系尊屬

第二　直系卑屬

第三　配偶者

第四　兄弟姉妹

第五　前五號ニ掲ケタル者ニ非サル家族

第六　前五號ニ掲ケタル者ニ非サル家族

第九百五十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

扶養義務者一人ニシテ扶養ノ權利者數人ナル場合ニ於テ義務者一人ニシテ總テノ權利者ニ對シテ扶養ヲ爲スノ資力ヲ有スルトキハ別ニ論スルコトナケレトモ其全員ヲ扶養スル資力ヲ有セサルトキハ如何ニス可キヤ此場合ニ於テハ其權利者中ニ於テ順位ヲ設ケ其順位ノ先ナル者ノミカ扶養ヲ受クルコトトセサル可カラス法律ハ左ノ如ク其順序ヲ定メタリ第一、直系尊屬第二、直系卑屬第三、配偶者第四、配偶者ノ直系尊屬及ヒ直系卑屬ノ配偶者第五、兄弟姉妹第六、前五號ニ掲ケサル家族是ナリ而シテ此順位モ亦德義ト自然ノ人情トニ依リ定メタルナリ歐米ノ人情ヨリ云ヘハ直系尊屬ヨリ配偶者及ヒ直系卑屬ヲ先ニス可シト雖モ我邦ニ於テハ直系尊屬ハ最モ尊重ス可キカ故ニ之ヲ第一順位ニ置キタリ

扶養權利者タル直系尊屬又ハ直系卑屬中親等ノ異ナル者アルトキ例ヘハ父母ト祖父母トアルトキ又ハ子ト孫トアルトキハ其最モ近キ者ヲ先ニス即チ父母ハ祖父母ヨリ先ニ子ハ孫ヨリ先ニ扶養ヲ受クルモノトス是レ自然ノ人情ニ基クモノナリ

○同順位ノ權利者間ニ在リテハ其需要ニ應シテ扶養ノ資ヲ分ツコト＝第九百五十八條　同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ各其需要ニ應シテ扶養ヲ受クルコトヲ得(第九百五十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用スヘシ)同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ其間ニ區別ヲ設クルコトヲ得ス例ヘハ家ニ子數人アルトキハ其子ハ扶養ヲ受クルコトニ付キ區別ナシ然レトモ此數人ハ扶養義務者カ其義務トシテ出ス金員ヲ平等ニ分チテ受ク可キヤ如何法律ハ此場合ニハ扶養ノ資ヲ各權利者ノ需要ニ應シテ分ツコトトセリ故ニ例ヘハ扶養ヲ受ク可キ子三人アリテ各其需要ノ同シキトキハ平等ニ分ツ可シト雖モ各扶養權利者ノ需要ハ其資力、身體ノ强弱、年齢、男女等ニ依リ同シカラサルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ自ラ差等ナキヲ得サルモノトス例ヘハ甲、乙、丙ノ三子アリテ甲(男子)ハ大學ニ入リ一ヶ月十八圓ヲ要スレトモ他ヨリ八圓ノ收入ヲ得ル途アリ乙(女子)ハ一ヶ月十二圓ヲ要スレトモ他ヨリ收入スルモノナク丙ハ幼稚ニシテ僅ニ六圓ヲ要スルノミ此場合ニ於テハ扶養義務者ニ對シ甲ハ一ヶ月十圓ヲ請求スルニ止マルモ乙ハ十二圓丙ハ六圓ヲ請求スルコトヲ得可シ然レトモ甲乙丙共ニ同一ノ學校ニ入リ同額ノ學費ヲ要シ孰レモ他ヨリ收入ヲ得ル途ナキトキ換言スレハ各其需要ノ相同シキトキハ孰レモ同額ヲ受クルモノトス

此場合ニ於テモ亦家ニ在ル權利者ト然ラサル者トノ間ニハ區別アリ例ヘハ甲男ハ家ニ在ルモ乙男ハ養子ト爲リテ他家ニ在リ父母ノ中父ハ家ニ在ルモ母ハ其實家ニ在ル場合ニ於テ孰レモ扶養ヲ受ケントスル場合ニ於テ扶養義務者カ各權利者ノ需要ニ應スルコトヲ得ルトキハ別ニ說明ヲ要スルコトナシ然レトモ其義務者ニシテ各權利者ノ需要ニ應スルノ資力ナキトキハ恰モ扶養義務者ニ關スルカ如ク(第九五六條)家ニ在ル者先ツ扶養ヲ受タル權利ヲ有スルモノトス是レ家族制度ヨリ生スル自然ノ結果ナリ亦從來ノ慣習モ然ルナリ

○扶養義務ヲ生スル場合――第九百五十九條　扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クヘキ者カ自己ノ資產又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサルトキニノミ存在ス自己ノ資產ニ依リテ敎育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シ(兄弟姉妹間ニ在リテハ扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クル必要カ之ヲ受クヘキ者ノ過失ニ因ラスシテ生シタルトキニノミ存在ス但扶養義務者カ戶主ナルトキハ此限ニ在ラス(人事編第二七條第二九條)

何人モ各自立シテ生活スルヲ原則トスルカ故ニ扶養ノ義務ハ自活スルコトヲ得サル者ニ對シテ與フルコトニ限ラサル可カラス故ニ本條ヲ以テ此義ヲ明カニシ扶養權利者カ自ラ生活スルコト能ハサル場合ニ限リ此義務アルモノトセリ而シテ茲ニ此規定ヲ設ケサルトキハ第九百五十四條ニハ單ニ直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ノ義務ヲ負フトアルカ故ニ自ラ生活スルコトヲ得ル者ト雖モ扶養ヲ受クル權利ヲ有スルモノニ非サルカノ疑ヲ生スルニ至ル可キヲ以テ此規定ヲ設ケタリ蓋シ父又ハ子カ莫大ノ資產ヲ有スル場合ニ於テ父又ハ子カ敢テ自活スルコト能ハサルトキニモ尙ホ之カ衣食ノ資ヲ助クルハ德義上ノ問題ニシテ法律上ノ義務ト爲ス可キモノニ非ス德義上ノ問題ハ敢テ自活ヲ爲スコト能ハサルカ如キ必要ノ場合ノミニ生スルモノニ非サレトモ法律上ノ問題ハ必要ノ場合ニノミ規定スルモノナレハ前ノ場合ノ如ク扶養ヲ爲スノ必要ナキカ如キ場合ニ於テハ其義務ヲ認メサルナリ是ヲ以テ幾分カ財產ヲ有スル者カ其收益ノミヲ以テ生活スルコト能ハサルトキハ其元本ヲ盡シタル後ニ非サレハ他ヨリ扶養ヲ受クルコトヲ得ス又身體健全ニシテ苟モ勞務ニ服スル以上ハ之ニ因リテ生活ノ資ヲ得ルニ難カラサルトキハ唯安居シテ他ノ給養ヲ受ケント欲スルトモ許ス可キモノニ非ス若シ其者カ年少若クハ老年ニシテ勞務ニ堪ヘ難キトキハ論ヲ俟タス縱令壯年ニシテ勞務ニ服スルニ堪フル者ト雖モ其者ノ身分ニ依リ勞務ニ服シ難キトキハ扶養ヲ受クルヲ得ルモノトス又扶養ノ義務ハ單ニ生活ヲ扶養スル義務ニ止マラス必要ナル場合ニ於テハ敎育ニ付テモ扶養ノ義務アリ蓋シ敎育ハ文明國ニ在リテハ必須ニシテ缺ク可カラス敎育ナキ生活ハ殆ト生活ト爲スニ足ラサルモノナルカ故ニ自己ノ資產ニ依リテ敎育ヲ受クルコト能ハサル者ハ扶養義務者ノ費用ヲ以テ敎育ヲ受クルコトヲ

得ルモノトセサル可カラス而シテ其教育ノ程度ハ各人同シカラス其身分年齢身體ノ强弱及ヒ扶養義務者ノ身分資力等ニ依リテ異ナル可ク敢テ國家カ國民ニ對シテ負ハシメタル教育義務ノ程度ト同シキモノニ非サルナリ(小學校令第三二條)

以上叙述スルカ如ク扶養ノ權利義務ハ其權利者カ自活スルコト能ハサル場合ニノミ存スルヲ原則トスレトモ之ニ對スル例外ナキニ非ス(一)第七百九十八條ノ規定ニ從フトキハ夫又ハ妻タル女戸主ハ其妻又ハ夫ノ資力ノ如何ニ拘ラス一切ノ生活費ヲ負擔ス但シ其義務者ハ其權利者ノ財產ヲ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利ヲ有ス(二)親權者ハ其子ノ資力如何ニ拘ラス之ヲ教育セサル可カラス(第八九〇條)但シ親權者ハ之カ爲メニ子ノ財產ノ收益ヲ爲ス故ニ第一第二ノ場合共ニ權利者ノ財產ヨリ生スル收益ニシテ生活費教育費ヲ償フニ足ラサル場合ニ於テノミ眞ノ義務タル可シト雖モ若シ生活費教育費カ權利者ノ財產ヨリ生スル收益ト同シキカ又ハ之ヨリ少キトキハ眞ノ義務トシテ不利益ヲ受クルモノニ非ス

或立法例ニ於テハ過失ニ因リテ自活スルコト能ハサルニ至リタル者ニハ單ニ生命ヲ保ツニ必要ナル資料ノミヲ給ス可キモノト爲セリ然レトモ本法ニ於テハ第二項ノ場合ヲ除クノ外ハ右ノ如キ條件ヲ設ケス扶養權利者ハ自己ノ資產又ハ勞務ニ依リテ衣食住及ヒ教育ノ費ヲ辨スルコト能ハサル者ニハ其一切ノ費用ヲ給ス可キモノト爲シ其生活ヲ爲スコト能ハサル原因ノ如何ハ敢テ之ヲ問ハサルナリ然レトモ例外トシテ兄弟姉妹ノ間ニ在リテハ其自活スルコト能ハサルニ至リタル者ノ過失ニ因リテ茲ニ至リタルトキハ敢テ扶養ヲ請求スルコトヲ得サルモノトセリ故ニ父カ放蕩ノ爲メニ自己ノ資產ヲ浪費シ自活スルコト能ハサルニ至リタルトキト雖モ其子ハ之ニ對シテ扶養ヲ爲ササル可カラス然レトモ若シ兄又ハ姉カ然ルトキハ弟又ハ妹ハ之ヲ扶養スルノ義務ナシ兄弟姉妹ヲ他ノ者ト區別シタルハ蓋シ兄弟姉妹ハ親子其他直系血族間ニ於ケル如ク互ニ相扶養ス可キ必要アルコトハ寧ロ例外ニ屬スルモノニシテ其間相互ノ扶養ヲ責ムルコト直系血族ノ如クスルコト能ハサルハ是レ自然ノ情愛ノ厚薄アルニ依ルナリ故ニ佛蘭西民法及ヒ獨逸民法ノ如キハ兄弟姉妹ノ間ニハ

扶養ノ義務存セサルモノト爲シタリト雖モ多數ノ立法例ニ於テハ扶養ノ義務存スルモノト爲シ本條第二項ニ於ケルカ如キ制限ヲ設ケタリ

然レトモ戸主ハ其兄弟姉妹カ扶養ヲ受クルノ必要其過失ニ因リテ生シタルトキト雖モ尊養ノ義務ヲ負フモノトス是レ家族制度ヨリ生スル當然ノ結果ト云フコトヲ得可シ蓋シ我邦ニ於テハ戸主其家ノ全財産ヲ有シ家族ハ一切ノ財産ヲ有セサルヲ通例トスルカ故ニ家族ハ如何ナル理由ニ因リテ自ラ生活スルコト能ハサルニ至ルトモ戸主カ之ヲ顧ミサルコトヲ得ルモノトスルトキハ家族ハ如何トモスルコト能ハサルニ至ル可キヲ以テナリ而シテ戸主カ家族ヲ扶養ス可キ此義務ハ獨リ兄弟姉妹ニ對スル場合ノミニ限ラス之ヨリ親族關係ノ遠キ者ト雖モ其家族タル以上ハ之ニ對シテ兄弟姉妹ニ於ケルカ如キ同一ノ義務ヲ負フモノトス

○扶養ノ程度――第九百六十條　扶養ノ程度ハ扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リ之ヲ定ム（人事編第二九條）

扶養ノ程度ハ豫メ法律ヲ以テ之ヲ一定スルコト能ハス其程度ハ一方ニ於テハ扶養權利者ノ需要ト又他ノ一方ニ於テハ扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リ異ナラサルヲ得サレハナリ例ヘハ扶養權利者ニ付テ云ヘハ或ハ全ク資産ヲ有セス又勞務ニ就クヲ得サルコトアリ或ハ多少ノ資産ヲ有スルコトアリ又ハ勞務ニ就キ多少生活ノ資ヲ得ルモ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテハ自己生活ノ費用ノ全部ニ充ツルニ足ラサルコトアリ其第一ノ場合ニ於テハ生活費ノ全部ニ付キ扶養ヲ受クル必要アル可シト雖モ之ト異ナリテ第二ノ場合ニ於テハ不足部分ノミノ扶養ヲ受クルニ過キサルナリ又其全部又ハ一部ノ扶養ヲ受クル場合ニ於テ扶養權利者ノ身分ハ其需要ニ影響ヲ及ホスヤ論ヲ俟タス身分ノ高キ華族ノ如キハ下等社會ノ者ニ比スルトキハ多額ノ生活費ヲ要スルナリ而シテ又扶養ノ義務者ニ付テ云ヘハ或ハ資産ノ薄弱ナル者アリ富裕ナル者アリ或ハ身分ノ高キ者アリ又ハ然ラサル者アリ例ヘハ華族又ハ三井岩崎ノ如キ者ハ薄給ヲ受クル者又ハ車夫馬丁カ扶養ヲ爲ス場合ト同シキコト能ハス薄給者車夫馬丁カ扶養ヲ爲ス場合ニ於テハ僅ニ其權利者カ生活ヲ爲スニ足ル丈ノ資ヲ給スレハ足ルモ華族又ハ富裕者カ扶養ヲ爲ス場合ニ於テハ其權利者ノ生命ヲ保

持スルニ止マラスシテ尚ホ相當ノ資ヲ給セサル可カラス而シテ此等ノ程度ハ權利者ノ資力如何ニ依リテ定ム可キハ勿論ナレトモ必スシモ之ノミヲ以テ定ムルヲ得ス義務者ノ資力及ヒ身分ノ如何ニ依リテモ斟酌セサル可カラサルカ故ニ以上ノ如ク規定シタルナリ

扶養ノ程度ハ右ノ如ク扶養權利者ノ需要及ヒ扶養義務者ノ資力及ヒ身分ニ依リテ一旦之ヲ定メタリトモ其後ニ至リ若シ權利者ノ需要及ヒ義務者ノ資力及ヒ身分ニ變動ヲ生シタルトキハ之ヲ增減スルコトヲ得可キナリ例ヘハ最初其程度ヲ定ムル際ハ義務者ノ資力不十分ニシテ相當ノ資ヲ給スルコト能ハサリシモ後ニ至リ富裕ト爲リタルトキハ十分ノ扶養ヲ爲ササル可カラス又最初ハ權利者全ク無資力ナリシモ其後多少ノ財產ヲ有シ又ハ勞務ニ就キタルトキハ最初定メタル扶養ノ資額ヲ減スルコトヲ得可キナリ

○扶養ノ方法——第九百六十一條　扶養義務者ハ其選擇ニ從ヒ扶養權利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ヲ引取ラスシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

舊民法ニハ別ニ扶養ノ方法ヲ定メサレトモ扶養義務ヲ養料ヲ給ス可キ義務ト爲シタルカ故ニ當事者間ノ協議ニテ其義務ヲカ權利者ヲ引取リテ扶養ヲ爲ストキハ別ニ論スルコトナシト雖モ若シ此ノ如キ協議調ハサルトキハ其義務者ハ單ニ扶養ノ資料ヲ給スルヲ以テ足ル又外國ノ立法例ニ於テモ多クハ扶養ノ方法トシテ金錢ノ支拂ヲ爲ス可キモノト爲スト雖モ我邦ノ事情ニ照ストキハ扶養權利者ニ扶養ノ資料ヲ與フル方法ノミニテハ適當ナラサルカ故ニ或ハ扶養權利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ或ハ之ヲ引取ラスシテ單ニ生活ノ資料ヲ給スルコトトシ其選擇ハ一ニ之ヲ其權利者ニ任シタリ然レトモ單ニ此等二方法ノミナルトキハ不便ナルコトアル可キヲ以テ正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ他ノ方法ヲ定ムルコトヲ得ルモノトセリ例ヘハ扶養權利者ヲ扶養義務者ノ家ニ引取ルトキハ家內ニ不和ヲ生ス然レトモ其權利者カ生活ノ資料ヲ受ケテ他人ノ家ニ居住スルコトノ不可ナル事情アルカ如キ場合ニ於テハ扶養權利者ハ別ニ一戶ヲ構ヘ扶養義務者ヨリ唯其費用ヲ受クル

コトトスルヲ得可キナリ而シテ其方法ハ一ニ裁判所ノ定ムル所ニ依ラサル可カラス

○扶養ノ程度又ハ方法ヲ定メタル判決ノ效力―第九百六十二條　扶養ノ程度又ハ方法カ判決ニ因リテ定マリタル場合ニ於テ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得

（民事訴訟法第二四〇條第二四四條）

凡ソ判決ハ一旦確定シタルトキハ後ニ至リ其效力ニ變更ヲ生セサルヲ通例トスト雖モ扶養義務ニ付テハ此原則ニ依ルコト能ハサルナリ既ニ第九百六十條ニ於テ叙述シタルカ如ク契約ニ因リテ扶養ノ程度及ヒ方法ノ定マリタル場合ニ於テハ其後ニ至リ其根據タル事情ノ變更ニ依リ變更ヲ來シ又ハ其消滅ヲ來シタルトキハ其義務ニ變更ヲ生シ又ハ之ヲ消滅セシムルハ論ヲ俟タサル所ナルカ判決ニ因リテ扶養ノ程度及ヒ方法カ定マリタル場合ニ於テモ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得セシメサル可カラス扶養ノ程度ハ權利者ノ需要ト義務者ノ



身分及ヒ資力トニ依リテ定ムルモノナレハ權利者ノ需要又ハ義務者ノ身分及ヒ資力ノ變更シタルトキハ其程度ハ最初定メタルモノト同シカラサル可キニトハ契約ニ因リテ之ヲ定メタル場合ト判決ニ因リテ其定マリタル場合トニ依リテ異ニス可キ理由アルヲ見サルナリ又扶養ノ方法ニ付テモ亦同シキナリ例ヘハ最初判決ニ因リテ扶養ノ程度ヲ定メタルトキニ在リテハ扶養權利者ハ全ク無資力ナリシモ其後ニ至リ多少財產ヲ有スルニ至リ又ハ勞務ニ就キ多少ノ收入ヲ得ルニ至リ又最初多少ノ財產ヲ有シ又ハ勞務ニ就キタル者カ其後ニ至リ全ク無資力ト爲リ又ハ勞務ニ就クコト能ハサルニ至ルコトアリ又扶養義務者ニ付テ云ヘハ最初富裕ナリシモ後貧困ニ陷キルコトアリ又最初ハ十分ノ生活ノ資料ヲ給スルコト能ハサリシモ後富裕ト爲リ十分ノ生活資料ヲ給スルヲ得ルニ至ルコトアリ又扶養ノ方法ニ付テモ最初權利者ヲ義務者ノ家ニ引取リテ養ヒシモ幼年ナリシ權利者カ成年ニ達シ他所ニ於テ敎育ヲ受クル必要ヲ生シタルカ如キ場合又ハ最初權利者ヲ引取ラスシテ單ニ生活ノ資料ノミヲ生セシモ後ニ至リ引取リテ看護ヲ要ス可キ疾病ニ罹リタルカ如キ場合ニ於テハ其

方法ヲ變更セザル可カラザルノ必要アリ而シテ是レ特ニ明文ヲ設ケテ規定セザルトキハ扶養ノ程度及ヒ方法ニ關スル判決モ普通ノ原則ニ依リ確定後ニ於テハ之カ變更又ハ消滅ヲ請求スルコトヲ得サルヲ以テナリ

○扶養ノ權利ノ性質――第九百六十三條　扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

扶養ヲ受クルノ權利ハ一ノ財產權(債權)ナルカ故ニ債權總則ノ規定ハ總テ之ニ適用セラル可キヲ原則トスト雖モ扶養ヲ受クルコトハ實ニ其權利者ノ生活教育ヲ目的トシ必要缺ク可カラサルモノニシテ若シ之カ處分ヲ許スコトトスルトキハ其目的ヲ達セサル可シ而シテ法律カ此扶養ノ權利及ヒ義務ヲ設ケタルハ公益ニ基キタルナリ若シ扶養權利者カ其權利ヲ拋棄シテ扶養ヲ受ケサルニ至ルトキハ遂ニ餓死スルニ至ル可ク然ラサルトモ國又ハ地方自治體ニ於テ之ヲ養ハサルヲ得サルニ至ル可クシテ此ノ如キハ此規定ヲ設ケタル精神ニ反スルナリ故ニ扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得サルハ勿論之ヲ擔保ニ供シ又ハ差押フルコトヲ得サルナリ(民事訴訟法第六一八條第一項第一號)

# 民法親族 終

法律學士　掛下　重次郎　講述

# 民法親族

（三十三年度講義錄）

和佛法律學校發行

# 民法親族目次


緒言……一
第一章　總則……三
第二章　戸主及ヒ家族……一七
第一節　總則……一七
第二節　戸主及ヒ家族ノ權利義務……三四
第三節　戸主權ノ喪失……四一
第三章　婚姻……六六
第一節　婚姻ノ成立……六七
第一款　婚姻ノ要件……六七
第二款　婚姻ノ無效及ヒ取消……八七
第二節　婚姻ノ效力……一〇五
第三節　夫婦財產制……一一二

第一款　總則……一一四
第二款　法定財產制……一二四
第四節　離婚……一三七
第一款　協議上ノ離婚……一三九
第二款　裁判上ノ離婚……一四六
第四章　親子……一六一
第一節　實子……一六一
第一款　婚姻子……一六三
第二款　庶子及ヒ私生子……一七五
第二節　養子……一九一
第一款　縁組ノ要件……一九四
第二款　縁組ノ無效及ヒ取消……二一一
第三款　縁組ノ效力……二二四
第四款　離緣……二二六
第五章　親權……二四九
第一節　總則……二五四
第二節　親權ノ效力……二五八
第三節　親權ノ喪失……二九二
第六章　後見……二九七
第一節　後見ノ開始……二九九
第二節　後見ノ機關……三〇二
第一款　後見人……三〇三
第二款　後見監督人……三二八
第三節　後見ノ事務……三四三
第四節　後見ノ終了……三八〇
第七章　親族會……三九四
第八章　扶養ノ義務……四一三

民法親族目次終

證據調ノ期日ハ口頭辯論ノ期日ト之ヲ區別スルコトヲ要ス證據調ハ當事者ノ行爲ニアラスシテ裁判所ノ行爲ニ屬ス隨テ縱令當事者ノ一方又ハ雙方カ證據調ノ期日ニ出頭セサルモ證據調ヲ爲シ得ル限ハ之ヲ爲スヘキコトハ既ニ說明シタル第二百八十四條ノ規定スル所ナリ但シ受訴裁判所ニ於ケル證據調ノ期日ハ同時ニ口頭辯論ノ期日ナルヲ以テ當事者ノ一方カ其期日ニ出頭セスシテ同時ニ口頭辯論期日ヲ懈怠シタルトキハ之ニ對シテ闕席判決ヲ爲スコトヲ得レトモ是レ其證據調ノ期日ニ出頭セサルノ理由ヲ以テ闕席判決ヲ爲スモノニアラス故ニ原告若クハ被告カ右期日ニ於テ證據調ヲ爲ス際出頭セサリシモ證據調ノ結了シテ辯論ニ移ル際出頭シテ辯論ヲ爲シタルトキ又ハ同時ニ辯論期日タラサル單純ノ證據調期日ニ出頭セサルトキハ爲メニ闕席判決ヲ受クヘキモノニアラス又口頭辯論ヲ怠ルトキハ其辯論ノ性質ノ如何ニ拘ラス常ニ闕席判決ヲ爲スヘキモノト速斷スヘカラス口頭辯論ノ懈怠カ闕席判決ノ條件ト爲ルニハ其口頭辯論カ必要的ナル場合ニ限ル而シテ判決ヲ爲スニハ常ニ其基本ト爲ルヘキ口頭辯論ヲ必要トシ決定ヲ以テ爲スヘキ裁判ハ然ラス故ニ例ヘ

ハ第二十八條第三十七條第八十三條第二百四十一條等ノ決定及ヒ抗告裁判所ノ裁判執行裁判所ノ裁判ノ如キモノニハ闕席判決ノ規定ヲ適用スルヲ得ス此等ノ裁判ハ初ヨリ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ルヲ以テ縱令裁判所カ其權能ヲ以テ口頭辯論ヲ命シタルトキト雖モ之ヲ權利伸長ノ必要ナル方式ト爲スコトヲ得ス隨テ當事者ノ一方カ闕席スルモ闕席判決ノ規定ニ依ラス書面及ヒ當事者一方ノ辯論ヲ參酌シ或ハ又職權調査ヲ爲シテ相當ノ裁判ヲ爲ササルヘカラス

口頭辯論ヲ必要トスル場合即チ訴ニ付キ判決ヲ爲スヘキ場合ニ於テモ若シ其判決ヲ爲スヘキ事項カ當事者ノ處分權內ニ屬セサルモノナルトキ例ヘハ無訴權ノ請求ヲ起シタル場合ノ如キハ縱令原告若クハ被告カ辯論期日ニ闕席シ又ハ辯論ヲ爲ササルトキト雖モ闕席判決ヲ爲スヘキモノニアラス此場合ニハ單ニ無訴權ナルノ理由ニ據リ當事者ノ執レカ闕席スルヲ論セス常ニ訴却下ノ判決ヲ爲スヘキモノナリ此判決ハ懈怠ニ基ク判決ナラサルカ故ニ闕席判決ニアラス隨テ故障ヲ申立ツルコトヲ得スシテ控訴若クハ上告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

其他裁判所カ職權調査ヲ爲スヘキ訴訟ノ必要條件ノ欠缺アルトキモ亦同シ何トナレハ此等ノ事項ハ當事者ノ辯論ニ因リテ左右スルヲ得サルモノニシテ辯論ノ有無ハ其欠缺ニ基キテ爲スヘキ判決ニ何等ノ影響ヲ及ホササルノミナラス闕席判決ハ本案ノ判決ナレハ之ニ先チテ右條件ノ欠缺ヲ調査シ若シ其欠缺アルトキハ之ニ基キテ判決ヲ爲ササルヘカラサレハナリ

原告若クハ被告カ準備手續ニ於テ受命判事ノ面前ニ於テ爲スヘキ口頭辯論ヲ懈怠シタル場合ニ於テハ闕席判決ヲ受クルコトナシ何トナレハ受命判事ハ受訴裁判所ノ委任事項ヲ執行スルニ止マリ訴訟ニ付テ自ラ判決ヲ爲スノ權能ナキモノナレハナリ

闕席判決ヲ爲スニハ以上說明シタル條件ニ適スル懈怠ノ外尙ホ出頭シタル當事者ノ申立アルヲ要ス故ニ若シ口頭辯論ノ期日ニ出頭シタル原告若クハ被告カ出頭セサル相手方ニ對スル闕席判決ヲ受クルコトヲ欲セサルトキハ辯論ノ延期ヲ求メ又ハ任意ニ退廷シテ訴訟ヲ休止セシムルコトヲ得ルモノトス又縱令當事者ノ一方カ出頭セサル場合ニ他ノ一方カ闕席判決ノ申立ヲ爲スモ左ノ

場合ニ於テハ裁判所ハ其申立ヲ却下セサルヘカラス

(一) 出頭シタル原告若クハ被告カ裁判所ノ職權上調査スヘキ情況ニ付キ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキ(第二五二條第一號)

裁判所ノ職權上調査スヘキ訴訟ノ要件ノ欠缺アルヤニ付キ疑アルトキハ裁判所ハ縱令當事者一方ノ闕席シタルトキト雖モ直チニ闕席判決ヲ爲スコトヲ得ス先ツ其欠缺ノ有無ヲ調査セサルヘカラス何トナレハ若シ其欠缺アルコト明白ト爲リタルトキハ本案ニ付テノ判決ヲ爲スコトヲ得スシテ當事者一方ノ闕席スルト否トニ拘ラス常ニ職權上訴却下ノ判決ヲ爲ササルヘカラサレハナリ故ニ出頭シタル一方カ相手方ノ懈怠ニ基キ闕席判決ノ申立ヲ爲スモ此職權上調査ヲ要スル事項ニ付キ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキハ其申立ヲ却下セサルヘカラス例ヘハ原告カ出頭シ被告ノ闕席ニ基キ闕席判決ノ申立ヲ爲シタル場合ニ原告ノ訴訟能力若クハ法律上代理ノ欠缺アルヤノ疑ヲ生シ裁判所カ其事項ヲ訊問調査スルニ當リテ原告カ其訴訟能力又ハ法律上代理ノ完全ナルヲ證明スルコト能ハサルトキハ右要件ノ欠缺アルヤ否ヤ隨テ其訴ヲ却下スヘキヤ否ヤノ先決問題ヲ生シタル場合ナルヲ以テ本案ニ關スル闕席判決ノ申立ハ自然却下セサルヲ得サルナリ

(二) 出頭セサル原告若クハ被告ニ口頭上事實ノ供述又ハ申立ヲ適當ナル時期ニ書面ヲ以テ通知セサルトキ(第二五二條第二號)

被告ノ闕席ニ由リ闕席判決ヲ爲ストキハ原告ノ事實上ノ供述ヲ被告ニ於テ自白シタルモノト看做スモノナリ然レトモ其事實上ノ供述又ハ申立ノ如何ヲ被告カ豫知セサル間ニ此推定ヲ下スハ條理ノ許ササル所ナルヲ以テ適當ナル時期ニ書面ヲ以テ之ヲ通知セサリシトキハ闕席判決ノ申立ヲ却下スヘキモノトス法文ニハ原告若クハ被告トアリ而シテ原告ノ闕席ニ由リ闕席判決ヲ爲ス場合ニハ右ノ如キ自白ノ推定ヲ爲スヲ要セス直チニ其訴ヲ却下スヘキカ故ニ原告ニ對シテハ豫メ通知ヲ要スルコトナキモ是レ原告ニシテ反訴ノ被告ト爲リタル場合ヲ豫想セタルモノト解釋スルヲ相當トス其他原告カ被控訴人ト爲リ又ハ被上告人ト爲リタル場合ニ於テモ亦此規定ノ適用ヲ受クヘキナリ被告カ第一回ノ辯論期日ニ出頭シ原告ヲ申立及ヒ事實上ノ供述ヲ總キタル後

次ノ辯論續行期日ニ闕席シタルトキハ被告ハ既ニ第一回ノ辯論ニ於テ通知ヲ受ケタル原告ノ事實上ノ供述ヲ自白シタルモノト看做サレ闕席判決ヲ受クルヲ當然トス之ニ反シテ原告カ豫メ被告ニ通知セサル申立又ハ供述ヲ被告闕席ノ際口頭辯論ニ於テ始メテ爲シタルトキ例ヘハ被告闕席ノ場合ニ原告カ第百九十六條ニ從ヒテ申立ヲ補充更正シ或ハ申立ヲ擴張シ或ハ又新ニ權利關係ノ確定ノ申立ヲ爲シタルトキハ此新ナル申述及ヒ申立ニ付テハ闕席判決ヲ爲スコト能ハス故ニ此場合ニ於テ原告カ右申述又ハ申立ヲ主張シテ闕席判決ノ申立ヲ爲シタルトキハ之ヲ却下セサルヘカラス

右第一第二ノ場合ニ於テハ出頭シタル原告若クハ被告ハ辯論ノ延期ヲ求ムルコトヲ得而シテ若シ裁判所ニ於テ其辯論ヲ延期シタルトキハ出頭セサル原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出ササルヘカラス

闕席判決ノ申立ヲ却下スル裁判ハ決定ヲ以テス而シテ此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得抗告ノ結果抗告裁判所カ申立却下ノ決定ヲ取消シタルトキハ申立ヲ却下シタル以前ノ狀態ニ復スルモノナリ而シテ闕席判決ヲ爲ササルヘカラサルコトハ既ニ上告裁判所ノ裁判ニ依リテ定マレルモノナレハ前ニ申立ヲ却下シタル裁判所ハ更ニ闕席判決ヲ爲スカ爲メニ新期日ヲ定メサルヘカラス即チ此期日ニハ闕席判決ノ申立人ノミヲ呼出シ前ニ闕席シタル者ヲ呼出スノ必要ナシ(第二五三條)隨テ新期日ニ闕席判決ノ申立人出頭セサルトキハ訴訟ハ休止ト爲ルモノトス縱令其相手方タル前期日ノ懈怠者カ任意ニ出頭シタルトキト雖モ亦同シ何トナレハ此者ハ新期日ニ於テ辯論ヲ爲スコトヲ許サレサルモノナレハナリ

次ニ當事者ノ一方カ辯論期日ニ出頭セサルモ裁判所ノ職權ヲ以テ闕席判決ノ申立ニ付テノ辯論ヲ延期スヘキ場合アリ即チ左ノ如シ(第二五四條)

(一)　出頭セサル原告若クハ被告カ合式ニ呼出サレサリシトキ

(二)　出頭セサル原告若クハ被告カ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メニ出頭スル能ハサルコトノ眞實ト認ムヘキ情況アルトキ

右二ノ場合ニ於テ裁判所ノ職權ヲ以テ闕席判決ノ申立ニ付テノ辯論ヲ延期シタルトキハ更ニ新期日ヲ定メテ出頭セサリシ當事者ヲ呼出スヘキコトハ第二

百五十四條ノ規定ニ依リテ明カナルモ其新期日ニ當事者雙方出頭シタルトキハ當然對審トシテ本案ノ辯論ヲ爲サシムヘキヤ否ヤノ疑問ニ付テハ兩說ヲ生シテ學者間ノ議論未タ一定セス即チ一說ニ依レハ右新期日ニ於テハ先ツ前期日ニ一方ノ出頭セサリシハ法文ニ示キル正當ノ原因アリシニ由レルヤ否ヤノ點ニ付キ辯論ヲ爲サシメ裁判所カ其不出頭ノ事由ヲ適法ナリト認メタルトキニ限リ之ニ本案ノ辯論ヲ爲スコトヲ許スヘク新辯論ノ結果其然ラサルコトヲ發見シタルトキハ前期日ノ懈怠者ニ對シ其新期日ニ出頭シタルニ拘ラス闕席判決ヲ爲スヘキモノナリト云ヒ他ノ一說ニ依レハ闕席判決ノ申立ハ即チ本案ノ辯論ナルヲ以テ一旦其申立ニ付テノ辯論ヲ延期シ而シテ延期シタル辯論ノ新期日ニ前期日ノ闕席者カ出頭シタルトキハ固ヨリ之ニ本案ノ辯論ヲ爲サシムルハ當然ニシテ最早闕席判決ヲ爲スヘカラスト法文稍明瞭ヲ缺クハ固ヨリ此ノ如ク論議ヲ生スルノ因タリト雖モ既ニ裁判所ニ於テ當事者一方ノ出頭セサル場合ニ其正當ノ原由トシテ合式ノ呼出ヲ受ケサリシコト又ハ避クヘカラサル事變ノ爲メ出頭ノ不能ナリシコトヲ認定シタルトキニ限リ職權ヲ以テ辯論ヲ延期シ新期日ニ前期日ノ闕席者ヲ呼出サシムルノ旨趣明白ナルニ拘ラス別段ノ明文ナクシテ新期日ニ爲スヘキ辯論ハ先ツ一旦裁判所ノ認定ヲ經タル不出頭ノ正當ノ原由アルヤ否ヤノ點ニ制限セラレ新辯論ニ基キ再ヒ右原由ノ確認セラレタル後ニ非サレハ前期日ノ闕席者ニ本案ノ辯論ヲ爲スコトヲ許スヘカラスト解スルカ如キハ其失當ナルコト明カニシテ而シテ闕席判決ノ申立ニ付テノ辯論ナル文字ハ決シテ斯ル意義ヲ表示シタルモノト速斷スルヲ許サス却テ闕席判決ノ申立及ヒ之ニ基ク辯論ハ後說ノ主張スル如ク本案ノ辯論ニ屬スルモノト謂フヘキヲ以テ後說ノ解釋ヲ可ナリト信ス

乙　闕席判決ノ本質

闕席判決ハ原告ノ懈怠ニ基クモノト被告ノ懈怠ニ基クモノトノ間ニ自ラ差異アレトモ等シク本案ノ判決ナルコトヲ忘ルヘカラス先ツ原告ノ懈怠ニ基ク闕席判決ヨリ說明セン即チ原告カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ辯論ヲ爲サヽル場合ニ被告カ闕席判決ノ申立ヲ爲シ而シテ第二百五十二條ニ依リテ其申立ヲ却下スヘキ事由及ヒ第二百五十四條ニ依リテ辯論ヲ延期スヘキ事由ナク又

裁判所ノ職權上調査スヘキ訴訟ノ要件ノ欠缺ナキトキハ第二百四十七條ニ規定スル如ク訴ノ却下ヲ言渡スヘキモノトス此判決ハ固ヨリ請求ノ當否ニ付キ審理ノ手續ヲ盡サスシテ直チニ爲スコトヲ得ルモノナレトモ實體上ノ請求權ヲ喪失セシムル本案ノ判決タルヲ失ハス隨テ訴ノ不適法トシテ却下セラレタル場合ト異ナリ實質上ノ確定力ヲ生スルヲ以テ原告ハ其判決ノ確定後再ヒ同一ノ請求ニ付キ訴ヲ起スコトヲ得ス抑モ法律カ原告ノ懈怠ニ基キ此ノ如キ却下ノ判決ヲ爲スコトヲ命スル所以ハ其懈怠ニ因リ訴ヲ取下ケタルモノト看做スカ爲メニアラサルハ勿論請求ヲ抛棄シタリト看做スカ爲メニモアラス又原告カ被告ノ抗辯ヲ自白シタルモノト看做スカ爲メニモアラス被告ハ抗辯ヲ提出シテ原告ノ請求ヲ爭フ以前ニ先ツ闕席判決ノ申立ヲ爲シ直チニ右ノ判決ヲ受クルコトヲ得ルモノナリ蓋シ各當事者ハ訴訟上本案ノ判決ヲ受クルノ權利及ヒ義務アリ而シテ原告ハ被告カ其權利ヲ行使シテ本案ノ判決ヲ求ムルニ當リ裁判所ヲシテ自己ノ請求ヲ正當トシテ採用セシムルニ必要ナル手段タル口頭辯論ヲ爲ササルヲ以テ右等ノ推定ヲ爲スノ必要ナク當然其訴ヲ却下スルノ外ナキニ至ルカ故ナリ

次ニ被告カ辯論期日ヲ懈怠シ原告カ闕席判決ノ申立ヲ爲シ而シテ其申立ヲ却下スヘキ事由又ハ辯論ヲ延期スヘキ事由ナク又訴訟ノ必要條件ノ欠缺ナキトキハ第二百四十八條ノ規定ニ從ヒ被告カ原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ自白シタルモノト看做シ闕席判決ヲ爲スヘキモノトス是レ亦實質的確定力ヲ生スヘキ本案ノ判決タルコト明白ニシテ被告ハ其義務トシテ答辯ヲ爲シ本案ノ判決ヲ受ケサルヲ得スシテ原告ハ之ヲ强要スルノ權アルニ被告ハ答辯ノ必要手段タル口頭辯論ヲ爲ササル結果原告ノ申立ニ因リ遂ニ此ノ如クシテ本案ノ判決ヲ受クルニ至ルモノナリ

被告ニ對スル闕席判決ハ右ノ如ク原告ノ事實上ノ供述ヲ被告ニ於テ自白シタルモノト看做スノ結果多クノ場合ニ於テハ被告ノ不利ニ歸スヘキモノナレトモ常ニ必スシモ然リト謂フヲ得ス何トナレハ右自白ノ推定ハ原告ノ主張シタル事實ノ立證ヲ待タスシテ直チニ眞實ト看做サルノ利益ヲ原告ニ付與スルニ止マリ其事實ヲ基礎トスル原告ノ請求カ果シテ法律上理由アルヤ否ヤハ全

タ別箇ノ問題ニ屬シ纔令原告主張ノ事實ヲ眞實ナリトスルモ之ニ基ク請求カ法律ノ上ニ於テ不當ナルトキハ裁判所ハ被告ノ闕席ノ儘却テ原告ノ訴ヲ却下スルノ判決ヲ爲ササルヘカラサレハナリ但シ此却下ノ判決ハ懈怠ヲ原由トシテ爲シタルモノニアラサルヲ以テ原告ハ之ニ對シ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス通常ノ上訴方法ニ依リテ不服申立ヲ爲スノ外ナシ若シ又被告ノ懈怠ノ場合ニ裁判所ノ意見ヲ以テ原告ノ請求ノ一分ヲ正當トシ他ノ一分ヲ不當トスルトキハ各其部分ニ付キ被告敗訴ノ判決及ヒ原告ノ請求却下ノ判決ヲ爲スヘク即チ此場合ニ於テハ請求ノ一部分ノミニ付キ闕席判決ヲ爲スヘキモノナリ

闕席判決ヲ爲スニハ出頭シタル一方ノ申立アルヲ必要トシ其一方ハ闕席判決ヲ求メスシテ辯論ノ延期ヲ求メ又ハ訴訟ヲ休止セシムルコトヲ得ルハ前ニ述ヘタルカ如シ既ニ訴訟ノ全部ニ付キ此權能アリトセハ出頭者ハ其一分ニ付テモ亦之ヲ行使スルコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ辯論期日ニ出頭シタル原告若クハ被告ハ一ノ訴ヲ以テ起シタル數箇ノ請求中ノ一箇ニ付キ闕席判決ヲ求メ他ノ請求ニ付テハ辯論ノ延期ヲ求メ又ハ一ノ請求中ノ一部分ニ付テノミ闕席判決ヲ求メ他ノ部分ニ付テハ之ヲ求メス或ハ又本訴及ヒ反訴アリタル場合ニ於テ其一ニ付テ闕席判決ヲ求メ他ノ一ニ付テハ辯論ノ延期ヲ求ムルコトヲ得ヘシ何トナレハ之ヲ禁止スルノ法文ナク又之カ爲メニ何等ノ障害ヲ生セサレハナリ又訴訟ノ全部ニ付キ闕席判決ノ申立アリタル場合ニ於テモ闕席判決ヲ爲スノ條件カ具備スルト否トニ從ヒ裁判所ハ本訴若クハ反訴ノ一ノミニ付キ又ハ數箇ノ請求中ノ一箇若クハ一箇ノ請求ノ一分ニ付テノミ闕席判決ヲ爲シ他ノ訴訟ノ部分ニ付テハ闕席判決ノ申立ヲ却下シ又ハ闕席判決ニアラサル却下ノ判決ヲ爲スヘキモノトス

闕席判決ハ必スシモ全部判決タルヲ要セス一分判決タルコトアルヘキハ右ノ説明ニ依リテ明カナルノミナラス又必スシモ終局判決タラスシテ中間訴訟ノ辯論ノ爲メ定メタル期日ヲ當事者ノ一方カ懈怠シタルトキハ單ニ其中間訴訟ヲ完結スルニ止マル中間判決ヲ爲スニ付テモ亦闕席判決ノ規定ヲ準用スルコトヲ得(第二六五條第二項但シ此ノ如ク中間ノ爭ヲ完結スル闕席中間判決ヲ爲スコトヲ得ルハ特ニ中間ノ爭ノミノ辯論ノ爲メ定メタル期日ヲ原告若クハ被

告カ懈怠シタル場合ニ限リ若シ其期日カ中間訴訟及ヒ本案ノ辯論ノ爲メ共通ニ定メラレタルモノナルトキハ全ク之ヲ懈怠シタル當事者ノ一方ニ對シテハ本案ヲ終局スル闕席判決ヲ爲スヘシト雖モ中間訴訟ノ辯論ヲ懈怠シテ本案ノ辯論ノミヲ爲シタル者ニ對シテハ闕席中間判決ヲ爲スヘカラス即チ此場合ハ第二百五十五條ノ規定ニ包含スルモノト謂フヘシ

闕席中間判決ニ對シテハ固ヨリ故障ヲ申立ツルコトヲ得ルヲ以テ此判決ヲ爲シタルトキハ故障期間ノ滿了又ハ故障ノ完結後ニアラサレハ本案ノ判決ヲ爲スヘカラス何トナレハ故障ノ結果其中間判決ハ廢棄セラルルコトアルヲ以テ隨テ之ヲ基本トスル本案ノ手續及ヒ判決ハ其效ナキニ至ルノ不都合ヲ生スルコトアルヘケレハナリ

又闕席判決ノ規定ハ反訴ニハ勿論既ニ原因ノ確定シタル請求ノ數額ノ確定ヲ目的トスル訴訟手續ニモ準用スヘキハ第二百六十五條第一項ノ規定スル所ノ如シ故ニ一旦請求ノ原因ヲ正當ナリトスル中間判決アリタル後原告カ數額ニ付テノ辯論期日ヲ懈怠シ闕席判決ヲ爲スノ條件具備スルトキハ被告ノ申立ニ



因リ原告ノ請求却下ノ判決ヲ爲スヘキモノトス是レ決シテ請求ノ原因ヲ正當ト爲シタル中間判決ト抵觸スルモノニアラス何トナレハ右中間判決ハ未タ原告ノ請求ヲ是認シタルモノニアラスシテ數額ニ付テノ辯論ハ其請求ノ當否ヲ判斷スルニ必要ノモノナレハナリ又右辯論期日ニ被告カ闕席スルトキハ原告ノ申立ニ因リ原告ノ事實上ノ供述ヲ被告ニ於テ自白シタルモノト看做シ判決ヲ爲スヘキモノトス但シ此場合ニ於テハ請求ノ原因ハ既ニ中間判決ニ依リテ是認セラレ而シテ裁判所ハ之ニ羈束セラルルヲ以テ正當ノ原因ナシトノ理由ニ基キテハ第二百四十八條末段ニ規定セル却下ノ判決ヲ爲スコト能ハス

右ノ外原告若クハ被告カ中間判決後ノ口頭辯論期日ヲ懈怠シタルトキハ勿論通常ノ規定ニ從ヒ闕席判決ヲ爲スヘキモノトス

丙　故障

故障トハ闕席判決ヲ受ケタル懈怠者カ其判決ニ對シテ原裁判所ニ爲スヘキ不服申立ノ方法ナリ當事者ノ一方ノ懈怠アル場合ニ爲サレタル判決ハ口頭辯論ニ出頭シテ闕席判決ノ申立ヲ爲シタル他ノ一方ニ不利ナルトキト雖モ猶ホ其

者ニ對シテハ闕席判決ニアラサルヲ以テ其申立人ハ之ニ對シテ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス通常ノ上訴ニ依リ不服ノ申立ヲ爲スヘキモノナリ之ニ反シテ自己ノ懈怠ニ基キ闕席判決ノ不利益ヲ受ケタル懈怠者ハ之ニ對シ唯故障ヲ爲シ得ルノミニシテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス但シ故障ヲ棄却スル新闕席判決ニ對シテハ故障ヲ許ササルヲ以テ懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキニ限リ上訴ヲ爲スコトヲ得第三九八條故ニ例ヘハ被告ノ懈怠アル場合ニ原告ノ申立ニ因リ其事實上ノ供述ヲ被告ニ於テ自白シタルモノト看做スモ尙ホ原告ノ請求ノ一分ヲ不當ナリトシ其請求ノ部分ヲ却下シ他ノ一分ニ付キ被告敗訴ノ判決ヲ爲シタルトキハ此判決ニ對シ被告ハ故障ヲ爲スコトヲ得ヘク又原告ハ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ若シ此ノ如ク一ノ判決ニ對シテ一方ヨリ故障ヲ爲シ他ノ一方ヨリ控訴若クハ上告ヲ爲シタルトキハ其控訴若クハ上告ヲ受ケタル裁判所ハ無用ノ手續ヲ避クル爲メ故障ノ完結ニ至ルマテ職權ヲ以テ控訴若クハ上告ノ口頭辯論ヲ延期スヘキモノトス(第四一〇條第二項第四五四條)

故障ノ申立ハ懈怠ノ結果ヲ除去スル方法ニシテ上訴ニアラス隨テ上級審ニ向ヒテ爲スモノニアラス闕席判決ヲ爲シタル全裁判所ニ爲スヘキモノナリ而シテ實體上ノ條件即チ懈怠ノ正當ノ理由アリシコトヲ必要トセス單ニ形式的要件ヲ具備スルヲ以テ足ル其形式的要件トハ書面ヲ指出シテ爲スコト是ナリ而シテ其書面ニハ第一故障ヲ申立ツル闕席判決ヲ表示スルコト第二故障ヲ申立フル旨ヲ揭クルコトヲ要ス此他尙ホ本案ニ關スル事實證據等必要ナル準備事項ヲモ揭クヘキモノトス是レ故障ノ受理セラルルトキハ訴訟ハ闕席前ノ程度ニ復シ直チニ本案ノ辯論ヲ爲スヘキヲ以テナリ然レトモ比事項ハ前二ノモノト異ナリ必要ノ記載事項ニアラサレハ之ヲ故障申立ノ書面ニ揭ケタルモ爲メニ其申立ヲ不適法ナリトスルヲ得ス單ニ一般訴訟ノ準備事項ニ關スル規定ヲ適用スヘキノミ(第二五六條)

又故障ハ通例十四日ノ不變期間内ニ申立フルコトヲ要ス此期間ハ闕席判決ノ送達ヨリ起算スヘキモノナリ然レトモ故障ハ控訴又ハ上告ト異ナリ此期間ノ未タ始マラサル間即チ闕席判決言渡後其送達前ニ於テ爲スモ有效ナリトス故ニ闕席判決ノ送達ハ故障ヲ爲ス爲メニ必要ナラスシテ唯故障期間ヲ滿了キシ

メ以テ其判決ヲ確定セシムルニ必要ナルノミ外國ニ於テ送達ヲ爲スヘキトキ又ハ公示送達ヲ爲スヘキトキハ右十四日ノ不變期間ハ短キニ失スルカ故ニ裁判所ニ於テ闕席判決中ニ相當ノ故障期間ヲ定ムヘク若シ之ヲ遺忘シ或ハ之ヲ定ムルコト能ハサルノ事情アリテ闕席判決中ニ定メサリシトキハ後日決定ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス此決定ヲ爲スニ付テハ口頭辯論ヲ經ルヲ必要トセス而シテ此決定ニ對シテハ不服申立ノ途ナシ(第二五五條)右ノ如ク闕席判決又ハ決定ヲ以テ定メタル故障期間ハ亦不變期間タルヲ失ハス

凡ソ闕席判決ニ對シ故障ノ申立アリタルトキハ裁判長ハ先ツ其適法ナルヤ否ヤヲ調査シ若シ其判然許スヘカラサルトキ例ヘハ口頭辯論ニ出頭シテ闕席判決ヲ申立テタル者ヨリ故障ヲ爲シタル場合若クハ故障ヲ棄却スル新闕席判決ニ對シ故障ヲ申立テタル場合ノ如キ又ハ判然法律上ノ方式ニ適セサルトキ例ヘハ故障申立ノ書面ニ闕席判決ヲ表示セサル場合ノ如キ或ハ又明カニ故障期間ノ經過シタル後ニ故障ヲ起シタル場合ノ如キハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下スルヲ得ルモノトス此ノ如ク故障ノ不適法ナルコト明白ナル場合ニ故ラニ出人ノ全員カ一致セサル場合ニ於テ其一人ノミヨリ第一項ノ手續ニ依ル申請ヲ爲スコトヲ得ス

(四)　緣組ノ無效又ハ取消ノ判決カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一箇月內ニ判決ノ謄本ヲ提出シテ緣組ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(第九二條)此期間ヲ徒過シタルトキハ戶籍法第二百十條ニ依リ過料ニ處セラル

## 第六節　養子離緣ニ關スル屆出

(第一)　總論

(一)　本節ニ於テハ養子離緣ニ關スル屆出即チ戶籍法第四章第六節ノ規定ヲ說明スヘシ

(二)　養子離緣ニ裁判外ノ離緣ト裁判上ノ離緣トノ二種アリ民法ニ在リテハ裁判外ノ離緣ヲ協議上ノ離緣ト曰フ

(三)　裁判外ノ離緣ニ付テノ要件ハ左ノ如シ

(三)第一　縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得養子カ十五年未滿ナルトキハ其離縁ハ養親ト養子ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者

(二)(前節(第一)ノ(二)ノ第九及ヒ第十二參照)トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ爲サントスルトキハ養家ノ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得民法第八六二條養子カ死亡シタル後ハ養親ハ離縁ヲ爲スコトヲ得ス

第二　滿二十五年ニ達セサル養親又ハ養子カ裁判外ノ離縁ヲ爲スニハ養親ニ在リテハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ養子ニ在リテハ其實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス父母ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ、又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタル(四)トキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ養親又ハ養子カ未成年者ナルトキニ限リ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ繼父母又ハ嫡母カ離縁ニ同意セサルトキハ親族會ノ同意ヲ得テ離縁ヲ爲スコトヲ得(民



法第八六三條)

第三　禁治産者カ離縁ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(民法第八百六十四條ニ依リ第七百七十四條準用)

第四　離縁ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス(民法第八百六十四條ニ依リ第七百七十五條準用)裁判外ノ離縁ハ此届出ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得ル要式ノ意思表示ナリ

(四)　裁判上ノ離縁ニ付テノ要件ハ左ノ如シ

第一　民法第八百六十六條以下ニ掲ケタル事由アル場合ニ限リ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二　離縁ノ訴ハ養親又ハ養子ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得但シ養子カ滿十五年ニ達セサル間ハ其縁組ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得而シテ養子カ滿十五年ニ達セサル間ニ其實家ニ在ル繼父母又ハ嫡母ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルニハ養子ノ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノ

トス(民法第八六六條第八六七條)

離縁ノ訴ノ手續ニ付テハ人事訴訟手續法第一章ノ參照スヘシ裁判所カ離縁ノ請求ヲ正當ナリト認メタルトキハ判決ヲ以テ離縁ヲ宣言スヘシ

(五) 裁判上ノ離縁タルト裁判外ノ離縁タルトヲ問ハス養子カ戸主ト爲リタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ隠居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス(民法第八七四條)

(六) 裁判外ノ離縁ハ戸籍吏カ届出ヲ受理スルニ因リテ效力ヲ生シ(民法第八百六十四條ニ依リ第七百七十五條第一項準用)裁判上ノ離縁ハ離縁ヲ宣言スル判決ノ確定ニ因リテ其效力ヲ生ス故ニ離縁ノ届出ハ裁判外ノ離縁ニ在リテハ其效力ヲ生セシムル爲メ之ヲ爲シ裁判上ノ離縁ニ在リテハ判決ノ確定ニ因リテ既ニ效力ヲ生シタル離縁ニ付キ戸籍吏ヲシテ其身分登記ヲ爲サシメンカ爲メニ外ナラス

(注意) 離縁ヲ宣言スル判決ハ當事者間ノミナラス第三者ニ對シテモ亦其效力ヲ生ス(人事訴訟手續法第二十六條ニ依リ第十八條準用)

(第二) 届出ノ手續

(一) 裁判外ノ離縁ノ届出ハ養親及ヒ養子ヨリ之ヲ爲スヲ要ス養子カ滿十五年ニ達セサル場合ニ在リテハ養親ト養子ニ代リテ協議ヲ爲シタル者(前第一)ノ(三)ノ第一)ヨリ之ヲ爲スヲ要ス(第九六條)

養親カ死亡シタル後養子カ養家ノ戸主ノ同意ヲ得テ離縁ヲ爲ス場合ニ在リテハ養子ノミヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル(第九七條)

以上何レノ場合ニ在リテモ成年ノ證人二人以上ト共ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス(民法第八百六十四條ニ依リ第七百七十五條準用)

次ニ裁判上ノ離縁ニ付テハ其訴ヲ提起シタル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス(第九九條)

(二) 離縁ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付テハ別段ノ規定ナキカ故ニ通則ノ規定第一節(第一)ノ(一)參照)ニ從ハサルヘカラス

(三) 裁判外ノ離縁ハ届出ヲ爲スニアラサレハ效力ヲ生セス隨テ届出ヲ爲スヲ爲ササルトハ隨意ナリ之ニ反シテ裁判上ノ離縁ハ判決ノ確定ニ因リ效力ヲ生

スルモノナルカ故ニ其届出ハ既ニ效力ヲ生シタル事項ニ付キ公法上ノ義務ヲシテ之ヲ爲スヲ要スルモノタリ裁判上ノ離縁ノ届出ハ判決ノ確定ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要シ(第九九條)若シ之ヲ怠ルトキハ戸籍法第二百十條ニ依リ過料ニ處セラル

(四) 裁判外ノ離縁タルト裁判上ノ離縁タルトヲ問ハス其届出ハ口頭ヲ以テ又ハ署名シタル書面届書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得次ノ(五)ニ於テ書面ヲ以テスル届出ノ手續ヲ説明セ(六)ニ於テ口頭ヲ以テスル届出ノ手續ヲ説明スヘシ

(五) 離縁ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(第九五條)

一 當事者(養親及ヒ養子)ノ氏名職業及ヒ本籍地

二 養子ノ實父母ノ氏名職業及ヒ本籍地

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主(養家)ノ氏名職業及ヒ本籍地

四 縁組ノ年月日

五 離縁カ協議又ハ裁判ニ因ルコト

裁判上ノ離縁ノ場合ニ在リテハ判決確定ノ日即チ離縁カ效力ヲ生シタル年月日ヲ記載スルヲ相當トス此點一付キ戸籍法ニ規定ナキハ缺點ナリ

六 養子ノ妻カ養子ト共ニ養家ヲ去ルトキハ其旨及ヒ妻ノ名縁組ニ因リテ他家ヨリ入リタル者ハ離縁ノ場合ニ於テ養家ヲ去ルモノトス(民法第七三九條第七四〇條)而シテ夫カ其家ヲ去ルトキハ妻ハ當然之ニ隨ヒテ其家ヲ去ルモノナルカ故ナリ(民法第七四五條)

(注意) 妻アル養子カ同時ニ裁判外ノ離縁ト裁判外ノ離婚トノ届出ヲ爲ストキ又ハ同時ニ離婚ト離縁トノ判決カ規定シタル場合ニ於テ離縁ノ届出ヲ爲ストキハ本文ノ限ニ在ラス何トナレハ婚姻ハ縁組ト同時ニ解消サルルカ故ナリ

七 養子カ離縁ニ因リ養家ヲ去ルヘキ場合ニ在リテハ其復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地 養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者ハ離縁ノ場合ニ實家ニ復籍スルカ故ナリ(民法第七三九條)

(注意) (イ) 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ甲家ヨリ乙家ニ入リタル者カ更ニ養子縁組ニ因リテ乙家ヨリ丙家ニ入リタル後丙家ニ於ケル養親トノ間ニ離縁

アルトキハ甲家ニ復籍セスシテ乙家ニ復籍ス民法第七百三十九條ニ於テ實家ト謂フハ此場合ニ於テハ甲家ヲ指サスシテ乙家ヲ指ス

(ロ) 養子縁組ニ因リテ甲家ヨリ乙家ニ入リタル者カ更ニ養子縁組ニ因リテ丙家ニ入リタル後乙家ニ於ケル養親トノ間ニ離縁アルモ丙家ヲ去ラス何トナレハ丙家ニ入リタルハ第二ノ縁組ニ因リタルモノナルカ故ニ第一ノ縁組カ解消サルルモ影響ヲ受クヘキニアラサレハナリ隨テ此場合ニハ本文ノ限ニ在ラス

右ノ場合ニ於テ先ツ第一ノ縁組ニ付キ離縁アリタル後更ニ第二ノ縁組ニ付キ離縁アルトキハ丙家ヲ去ルモ乙家ニ入ラスシテ直チニ甲家ニ入ル何トナレハ第一ノ縁組ノ離縁ニ因リテ甲家ニ入ルヘカリシ效力ハ第二ノ縁組ノ存續ニ因リテ其發生ヲ妨ケラレタルモ第二ノ縁組モ亦離縁アリタル爲メ此障礙ハ排除セラレ第二ノ縁組ノ離縁ニ因リ丙家ヨリ乙家ニ入ルヘキ效力ト第一ノ縁組ノ離縁ニ因リ乙家ヨリ甲家ニ入ルヘキ效力トカ同時ニ發生スルヲ以テナリ故ニ此場合ニハ甲家ノ戸主ノ氏名等ヲ記載スルヲ要ス

(ハ) 養子縁組以外ノ方法例ヘハ民法第七百三十七條ノ場合ニ因リテ入籍シタル後其入籍シタル家ニ在ル者ノ養子ト爲リタル者ハ離縁ノ場合ニ於テ其家ヲ去ルコトナシ隨テ此場合モ亦本文ノ限ニ在ラス

(ニ) 養子縁組ニ因リテ他家ヨリ入リタル女カ養家ニ在ル男ト婚姻ヲ爲シタル夫ノ死亡前ニ離縁ノミヲ爲ス場合ニ在リテハ夫婦ハ其家ヲ異ニスルコト能ハサル結果民法第七百三十九條ノ適用ヲ妨ケラレテ養家ヲ去ラス隨テ此場合モ亦本文ノ限ニ在ラス

(ホ) 夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキ(妻カ養子縁組ニ因リテ他家ヨリ入リタル者ナルトキヲ謂フ)ハ夫ハ其選擇ニ從ヒ離縁又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要スルハ民法第八百七十六條ノ規定スル所ナリ此場合ニ於テ妻ノ離縁ト同時ニ夫カ離婚又ハ離縁ヲ爲ストキハ妻ノ離縁ノ屆書ニハ本文ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス然レトモ夫カ未タ離婚又ハ離縁ヲ爲ササルトキハ妻カ離縁ニ因リテ實家ニ復籍スヘキ效力ハ婚姻ノ存續ノ爲メニ其發生ヲ妨ケラレ妻

ハ離縁ニ因リ其家ヲ去ルコトナキカ故ニ本文ノ限ニ在ラス

妻カ離縁ヲ爲シタル後夫カ離婚又ハ離縁ヲ爲ストキハ之ト同時ニ妻ハ實家ニ復籍ス

八　養子カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由　養子カ實家ニ復籍スヘキ場合ニ於テ實家カ既ニ廢絶シタルトキハ其旨ヲ記載スルヲ要ス此場合ニ在リテハ入ルヘキ家ナキカ故ニ一家ヲ創立ス但シ廢絶シタル實家ヲ再興スルコトヲ妨ケス(民法第七四〇條)

裁判外ノ離縁ノ場合ニ於テ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スルトキハ(前第一)ノ(三)ノ第一、第二參照届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス(第九八條)

次ニ裁判上ノ離縁ノ届書ニハ離縁ヲ宣言シタル判決ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス(第九九條)

以上ニ述ヘタル外届書ニ届出人ノ署名捺印ヲ要スルコト(裁判外ノ離縁ノ届出ノ場合ニ在リテハ成年ノ二人以上ノ證人ハ證人タルコトヲモ記載スルコトヲ要ス)等既ニ本章第一節ニ說明シタル通則ニ從ハサルヘカラス

(六)　口頭ヲ以テ離縁ノ届出ヲ爲ス場合ニ在リテハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シテ自ラ届出ヲ爲スコトヲ要シ代理人ヲ差出スコトヲ許サス(第一〇一條)代理人ヲ許ササル理由ハ前節(第二)ノ(五)ニ述ヘタル所ト同シ

口頭ニ依ル届出ニ付テハ書面ニ依ル届出ノ手續ヲ準用ス(第一〇〇條)

(第三)　届出ノ受理

(一)　裁判外ノ離縁ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ離縁カ前(第一)ノ(三)ニ掲ケタル要件ヲ具備スルコト及ヒ戸籍法其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルコトヲ得ス(民法第八六五條第一項)

離縁カ要件ヲ具備セス又ハ法令ニ違反スル場合ト雖モ戸籍吏カ其届出ヲ受理シタルトキハ離縁ハ其效力ヲ生ス(民法第八六五條第二項但シ養親カ死亡シタル場合ヲ除ク外一方ノミヨリ届出ヲ爲シ戸籍吏カ之ヲ受理スルモ離縁ノ效力ヲ生スルコトナシ

(二) 裁判上ノ離縁ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ離縁ヲ宣言シタル判決カ確定シタルコトヲ認メタル後ニアラサレハ屆出ヲ受理スルコトヲ得ス

(三) 戸籍吏カ不當ニ屆出ヲ受理セサルトキハ屆出人ハ抗告ヲ爲スヲ得ルコト

ハ前節(第三)ニ述ヘタル所ト同シ

## 第七節　婚姻ニ關スル屆出

(第一) 總論

(一) 本節ニ於テハ婚姻ニ關スル屆出即チ戸籍法第四章第七節ノ規定ヲ說明スヘシ

(二) 婚姻ニ關スル實體上ノ要件ハ左ノ如シ

第一　法定ノ推定家督相續人ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入ルコトヲ得ス(民法第七四四條第一項)

第二　家族ハ戸主ノ同意アルニアラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七五〇條第一項)

第三　婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラントスルトキハ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第七四一條第一項)

第四　婚姻ニ因リテ他家ニ入ラントスル者ハ戸主ニアラサルコトヲ要ス(民法第七五四條第一項)

第五　陸海軍人カ婚姻ヲ爲スニハ勅許又ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルヲ要シ(陸海軍人結婚條例)華族カ婚姻ヲ爲スニハ宮内大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(華族令)

第六　男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七六五條)

第七　配偶者アル者ハ重ネテ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七六六條)

第八　女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六箇月ヲ經過シタル後ニアラサレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス女カ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懷胎シタル場合ニ於テハ其分娩ノ後ハ前項ノ期間内ト雖モ再婚ヲ爲スコトヲ妨ケス(民法第

七六七條)

第九　姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣言ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七六八條)

第十　直系血族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス但シ養子ト養方ノ傍系血族トノ間ハ此限ニ在ラス(民法第七六九條)

第十一　直系姻族ノ間ニ在リテハ姻族關係カ止ミタル後(民法第七二九條)ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七七〇條)

第十二　養子其配偶者直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テハ親族關係カ止ミタル後(民法第七三〇條)ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七七一條)

第十三　滿三十年ニ達セサル男又ハ滿二十五年ニ達セサル女カ婚姻ヲ爲スニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス父母ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ



去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ニ限リ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第七七二條)

第十四　繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得(民法第七七三條)

第十五　禁治產者カ婚姻ヲ爲スニハ後見人ノ同意ヲ要ス(民法第七七四條)

第十六　婚姻ヲ爲ス意思ハ戸籍吏ニ對スル屆出ニ依リテ之ヲ表示スルコトヲ要ス即チ要式ノ意思表示ナリ其屆出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス(民法第七七五條)

(注意)　外國ニ在ル日本人間ノ婚姻ニ付テハ民法第七百七十七條ニ特別ノ規定アリ

(二)　婚姻ヲ爲ス意思ハ屆出ニ依リテ表示スルニアラサレハ效力ヲ生セス戸籍吏カ婚姻ノ屆出ヲ受理シタルトキハ其時ヨリ婚姻ノ效力ヲ生ス(民法第七七五條)

婚姻ノ效力トシテ當事者ハ夫タリ妻タル身分ヲ取得シ妻ハ夫ノ家ニ入ル但シ入夫婚姻及ヒ壻養子縁組ノ場合ニ在リテハ妻ハ夫ノ家ニ入ラスシテ夫カ妻ノ家ニ入ル(民法第七八八條)尙ホ婚姻ノ效力ニ付テハ民法第七百八十九條乃至第八百七條等ヲ參照スヘシ

(第二)届出ノ手續

(一)婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ入夫婚姻及ヒ壻養子縁組ナルトキハ妻ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス(第一〇四條)

(二)婚姻ノ届出ハ當事者雙方ヨリ成年ノ證人二人以上ト共ニ口頭又ハ署名シタル書面(届書)ヲ以テ之ヲ爲スヲ要スルコトハ前第一ノ(二)ノ第十六ニ於テ之ヲ說明シタリ次ノ(三)ニ於テハ書面ヲ以テスル届出ノ手續ヲ說明シ(四)ニ於テハ口頭ヲ以テスル届出ノ手續ヲ說明スヘシ

(三)婚姻ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(第一〇二條)

一　當事者ノ氏名出生ノ年月日及ヒ本籍地

二　當事者ノ父母ノ氏名職業及ヒ本籍地

三　當事者ノ家族ナルトキハ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地

四　入夫婚姻又ハ壻養子縁組ナルトキハ其旨　通常ノ場合ニハ妻ハ夫ノ家ニ入ルモ入夫又ハ壻養子ハ妻ノ家ニ入ルヘキカ故ナリ

五　入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ラサルトキハ其旨　民法第七百三十六條ニハ女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シタルトキハ入夫ハ其家ノ戸主ト爲ル但シ當事者カ婚姻ノ當時反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラストアリ本號ハ此反對ノ意思表示ノ方式ヲ定メタルモノナリ

六　婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スル庶子アルトキハ其名及ヒ出生ノ年月日　庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス(民法第八三六條第一項)故ニ婚姻ヲ爲ス當事者ノ間ニ既ニ庶子アルトキハ本號ニ定メタル事項ヲ記載セシムルナリ

七　當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前婚家ノ戸主又ハ養親ノ氏名職業及ヒ本籍地

婚姻ニ付キ戸主父母後見人親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ(前第一)ノ(二)參照届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ヲ署名捺印セシムルコトヲ要ス(第一〇三條)

以上ノ外届書ニ届出人ノ署名捺印ヲ具備スルヲ要スルコト(成年ノ二人以上ノ證人ハ證人タルコトヲモ記載スルヲ要ス)軍人華族カ婚姻ヲ爲ス場合ニ在リテハ當該官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添附スルヲ要スルコト等本章第一節通則ニ掲ケタル要件ヲ具備セサルヘカラス

(四)　口頭ヲ以テ婚姻ノ届出ヲ爲スニハ届出人自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコトヲ要シ代理人ヲ差出スコトヲ許サス(第一〇八條代理人ヲ禁スル理由ハ前第五節(第二)ノ(五)ニ述ヘタル所ト同シ)

口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ付テハ書面ヲ以テスル届出ノ手續ヲ準用ス(第一〇七條)

(第三)　届出ノ受理

戸籍吏ハ婚姻カ前(第一)ノ(二)ニ掲ケタル要件ヲ具備セルコト及ヒ戸籍法其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルヲ得ス但シ前第一ノ(二)ノ第二又ハ第三ノ要件ノミヲ具備セサル場合ニ於テ戸籍吏カ注意ヲ爲シタルニ拘ラス當事者カ其届出ヲ爲サントスルトキハ此限ニ在ラス(民法第七七六條)

戸籍吏カ不當ニ届出ヲ受理セサルトキハ届出人ハ抗告ヲ爲スコトヲ得

(第四)　婚姻カ無效ナルトキ又ハ取消サレタルトキ

(一)　婚姻カ要件ヲ具備セス又ハ法令ニ違反スル場合ト雖モ戸籍吏カ届出ヲ受理スレハ婚姻ノ效力ヲ生ス婚姻カ無效ナルハ左ノ二場合ニ限ル(民法第七七八條)

一　人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキ

二　當事者カ婚姻ノ届出ヲ爲ササルトキ　前第五節(第四)ノ(一)ノ二ニ説明シタル所ト同シ

(二)　婚姻カ詐欺又ハ强迫ニ因リタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキト雖モ當事者自ラ之ヲ取消スコトヲ得ス婚姻ハ民法第七百八十條以下七條ニ掲ケタル

場合ニ限リ裁判所ノ判決ヲ以テノミ之ヲ取消スコトヲ得(民法第七七九條)

(三) 婚姻ノ屆出ヲ爲シテ戸籍吏カ之ヲ受理シ身分登記ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻カ無效ナルトキハ其屆出人ノ全員ヨリ其無效ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(第一〇五條)

屆出人ノ全員カ登記ノ取消ヲ申請スル事ニ付キ一致セサルトキハ婚姻無效ノ訴ヲ提起シ次ノ(四)ノ手續ヲ爲スノ外ナシ

(四) 婚姻ノ無效又ハ取消ノ判決カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一箇月内ニ判決ノ際本ヲ提出シ婚姻ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス(第一〇六條)此期間ヲ徒過シタルトキハ過料ニ處セラル

## 第八節　離婚ニ關スル屆出

(第一) 總論

(一) 本節ニ於テハ離婚ニ關スル屆出ノ手續(第四章第八節)ヲ説明ス(シ

(二) 離婚ニハ裁判上ノ離婚ト裁判外ノ離婚(協議上ノ離婚)トノ二種アリ

(三) 裁判外ノ離婚ヲ爲スニ付テノ要件ハ左ノ如シ

第一　夫婦ハ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得(民法第八〇八條)

第二　滿二十五年ニ達セサル者カ裁判外ノ離婚ヲ爲スニハ婚姻前ヨリ其家ニ在リタル者ハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ婚姻ニ因リテ他家ヨリ入リタル者ハ其他家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス父母ノ一方又ハ雙方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキ及ヒ繼父母又ハ嫡母カ同意セサルトキニ付テハ前第六節(第一)ノ(三)ノ第二ニ準(タル所ト同シ(民法第八〇九條)

第三　禁治產者カ離婚ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(民法第八百十條ニ依リ第七百七十四條準用)

第四　離婚ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ヲ以テ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ戸籍吏ニ屆出ツルコトヲ要ス(民法第八百十條ニ依リ第七百七十五條準用)裁判外ノ離婚ハ此屆出ニ因リテノミ之ヲ爲スコトヲ得ル所ノ要式ノ意思表示ナリ

(四)　裁判上ノ離婚ニ付テノ要件ハ左ノ如シ

第一　離婚ノ訴ハ民法第八百十三條以下ニ掲クル事由アル場合ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第二　離婚ノ訴ハ當事者ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得(民法第八一三條)

離婚ノ訴ノ手續ニ付テハ人事訴訟手續法第一章ノ規定ヲ參照スヘシ裁判所カ離婚ノ請求ヲ正當ト認ムルトキハ判決ヲ以テ離婚ヲ宣言ス

(五)　裁判外ノ離婚ハ戸籍吏カ届出ヲ受理スルニ因リテ效力ヲ生シ(民法第八百十條ニ依リ第七百七十五條準用裁判上ノ離婚ハ判決ノ確定ニ因リテ效力ヲ生ス

(注意)　離婚ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其效力ヲ生ス(人事訴訟手續法第一八條)

(第二)　届出ノ手續

(一)　裁判外ノ離婚ハ當事者雙方ヨリ成年ノ證人二人以上ト共ニ届出ツルコトヲ要シ(民法第八一〇條)裁判上ノ離婚ハ其訴ヲ提起シタル者ヨリ届出ツルコトヲ要ス(第一一一條)離婚ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付テハ別段ノ規定ナキカ故ニ通則(第一節(第一)ノ(一)ノ規定ニ從フコトヲ要ス

(二)　裁判外ノ離婚ノ届出ハ離婚ノ效力ヲ生セシムル爲メニ之ヲ爲スニ反シ裁判上ノ離婚ノ届出ハ判決ノ確定ニ因リ既ニ效力ヲ生シタル事項ノ届出ナリ裁判上ノ離婚ノ届出ハ判決確定ノ日ヨリ十日内ニ公法上ノ義務トシテ之ヲ届出ツルコトヲ要シ(第一一一條)此期間ヲ怠ルトキハ過料ニ處セラル

(三)　裁判上ノ離婚及ヒ裁判外ノ離婚ハ書面届書又ハ口頭ヲ以テ届出ツルコトヲ得

(四)　離婚ノ届書ニハ左ニ掲クル諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(第一〇九條)

一　當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地

二　當事者ノ父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

四　婚姻ノ年月日

五　離婚カ協議又ハ裁判ニ因ルコト

六　當事者カ離婚ニ因リ其家ヲ去ルヘキトキハ其復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地　婚姻ニ因リテ他家ヨリ入リタル者ハ離婚ノ場合ニ實家ニ復籍スルカ故ナリ尚ホ前第六節第二ノ(五)ノ七(注意)ヲ參照スヘシ

七　當事者カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由　民法第七百四十條ヲ參照スヘシ前第六節(第二)ノ(五)ノ八ニ述ヘタル所ト異ナラス

裁判外ノ離婚ノ場合ニ於テ父母後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スルトキ(前(第一)ノ(三)ノ第二參照)ハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ署名捺印セシムルヲ要ス(第一一〇條)

夫ニ裁判上ノ離婚ノ届書ニハ離婚ヲ宣言シタル判決ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス(第一一一條)

以上ノ外届書ニ届出人ノ署名捺印ヲ要スルコト(成年ノ二人以上ノ證人ハ證人タルコトヲモ記載スルヲ要ス)等ニ付テハ本章第一節通則ニ從フコトヲ要ス

(五)　口頭ヲ以テ離婚ノ届出ヲ爲スニハ届出人自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコトヲ要シ代理人ヲ差出スヲ許サス(第一一二條)

## 校外生規則摘要

一 講義錄ハ各部毎月二回發行シ滿一ヶ年ヲ以テ卒業トス
一ヶ年ヲ以テ完了セサルトキハ號外ヲ發ス

一 講義錄ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ

第一部　毎月　五　日　二十日
第二部　毎月　十　日　廿五日
第三部　毎月　十五日　三十日

一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス

一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得

一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試驗ノ上校內生三年級ニ編入セラルルコトヲ得

一 校外生ハ講義錄中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得
但シ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス

一 三ヶ月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス

一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十四年六月一日印刷
明治三十四年六月五日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目三十八番地
編輯兼發行者　小田幹治郎

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地
印刷者　金子鐵五郎

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地
印刷所　金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地
發行所　司法省指定　和佛法律學校
（電話番町百七十四番）